

岐阜市民病院 院内がん登録集計 〈がん部位別集計(胃・大腸・肝臓・肺・乳房)〉

この集計は、国が指定する登録様式に準拠して登録された院内がん登録データを使用して、岐阜市民病院の部位別がんの件数や、がんの広がりごとの治療方法を示しています。

なお、院内がん登録様式の項目を一部平易な表現に変更しています。

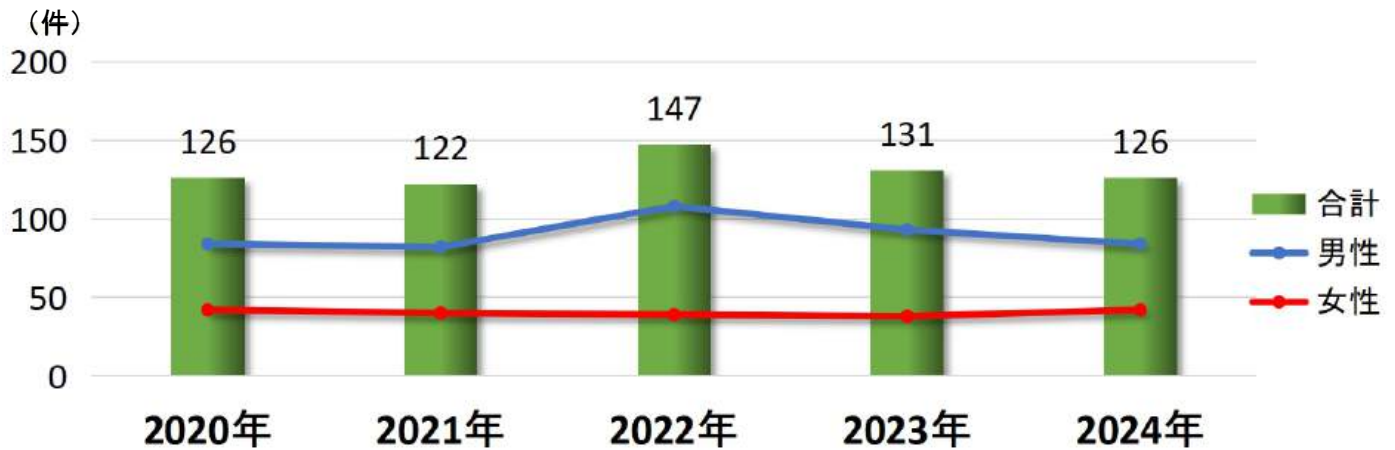
集計対象期間 2020年1月1日～2024年12月31日

集計対象症例 岐阜市民病院においてがんの診断、および治療を目的に初めて受診した症例
(転移・再発症例は含みません)

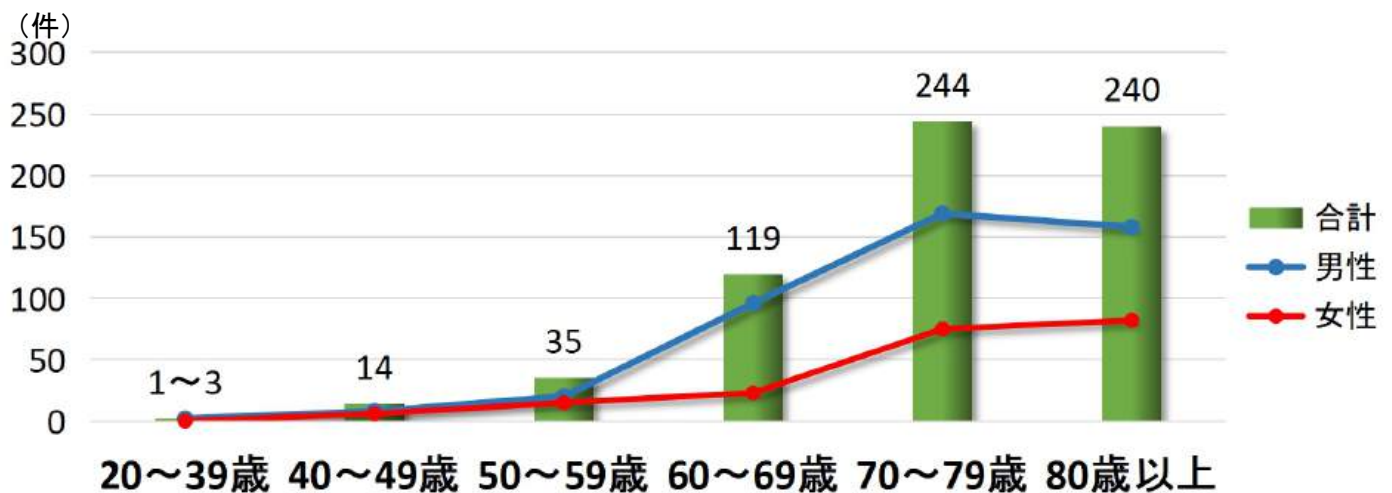
| | |
|---|---|
| <p>登録数の年次推移</p> <p>年齢階級別件数</p> <p>発見経緯の割合</p> <p>詳細な部位の割合</p> | <ul style="list-style-type: none">・集計対象について 全症例が対象(診断のみ、初回治療終了後、他院からの治療継続などを含みません)。・集計件数について<ol style="list-style-type: none">①同じ患者に複数のがんが存在した場合には、SEER2018準拠ルールに基づいて多重がんと判定されたものを、それぞれの部位にカウントします。②各集計表において、集計値が10以下の場合、個人が特定される可能性が高い反面、患者さんや一般の方に対して有用な診療情報を提供するため、国立がん研究センター作成の「院内がん登録全国集計報告書」に準じて、集計値が1件以上10件未満の場合は、(1-3)件、(4-6)件、(7-9)件とし、10件以上は実数で表示しています。 |
| <p>病期別割合</p> <p>病期別初回治療の内容</p> <p>病期別の治療件数</p> | <ul style="list-style-type: none">・集計対象について 当院で初回治療を開始した症例が対象(症状・治療の進行に従って後に追加された治療や、他院で行った治療は含みません)。・県・全国との比較について 全国集計結果閲覧システムから引用のため、最新データは2023年となります。・病期別分類について<ol style="list-style-type: none">①UICC(国際対がん連合)の定める病期分類に基づく。②肝臓癌については国内で一般的に用いられる日本肝癌研究会の原発性肝癌取扱い規約と、UICC TNM分類でそれぞれ集計。③〈病期別割合〉は当院の診療実績を表す資料として公開するにあたり、総合病期(治療前の検査結果や手術後の病理結果をもとに総合的に判断された病期)で集計しております。④〈病期別初回治療の内容〉〈病期別治療件数〉は検査結果により診断された病期から、どのような治療を行ったのかを表す資料として公開するにあたり、臨床病期(初回治療を開始する前の検査結果に基づく診断病期)で集計しております。・初回治療について 院内がん登録全国集計では、診断日(起算日)より5ヶ月(155日)を超えて実施された治療は未実施として集計されますが、当院では診断日より5ヶ月を超えて実施された初回治療も含めて集計を行っています。 |

胃 癌

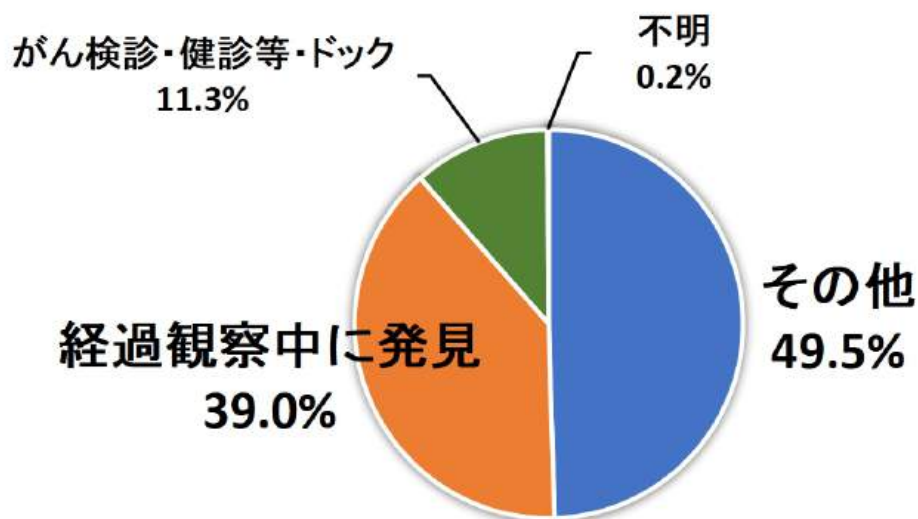
1.登録件数の年次推移(当院で「がん」と診断または治療が行われた件数)



2.年齢階級別件数(2020~2024年)



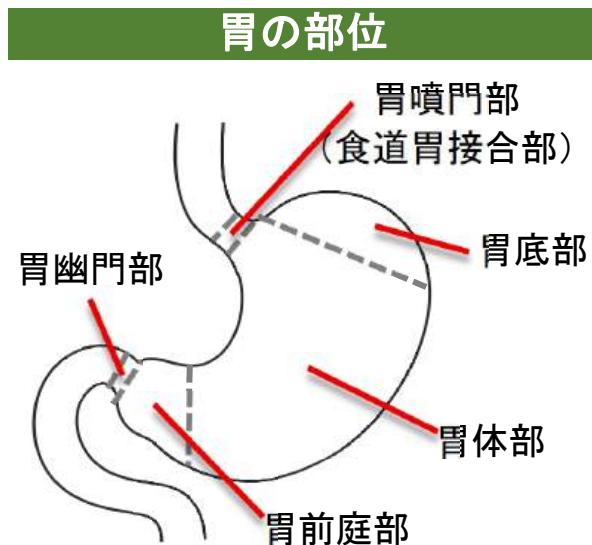
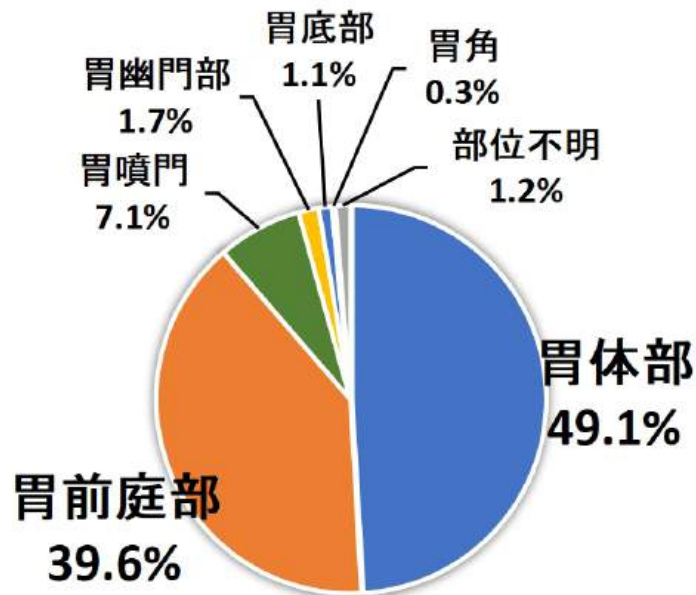
3.発見経緯の割合(「がん」が見つかったきっかけ 2020~2024年)



- ・経過観察中 : 自院・他院問わず、癌の疑いで経過観察中や、他の病気の治療・検査などにより癌が発見されたものを含みます
- ・その他 : 検診・健診・ドック、経過観察に当てはまらないもの。自覚症状による受診を含みます

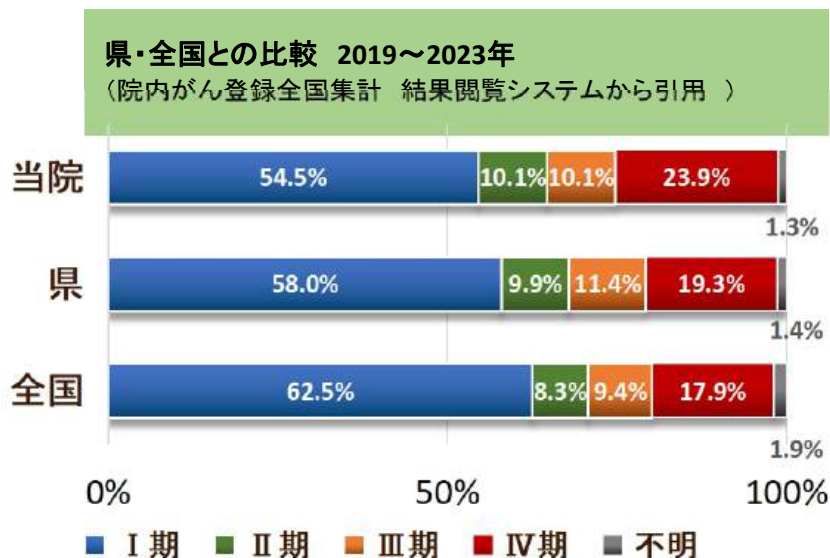
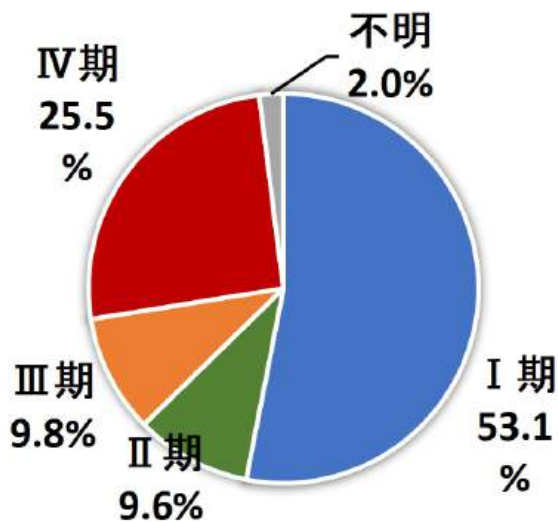
4. 詳細な部位の割合 (どの位置に「がん」が発生したか 2020～2024年)

・部位不明について: スキルス癌などで発現部位が特定できなかったケースや、本人希望で詳しく検査を行わなかったケースなどを含みます



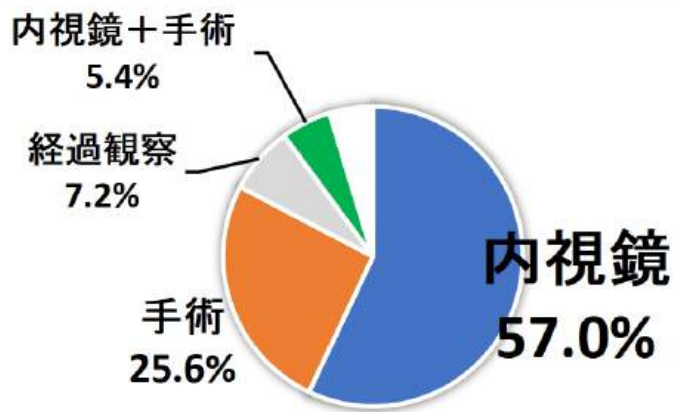
5. 病期別割合 (「がん」がどこまで広がっているかを示す”進み具合” 2020～2024年)

・I～IV期のローマ数字で表し、数字が大きくなるほど、がんが進行していることを示しています
 ・「(病期)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます

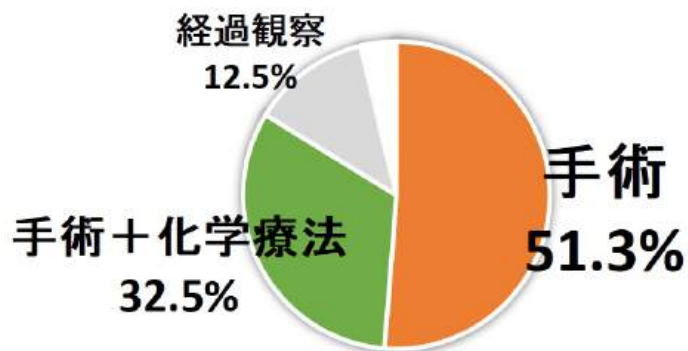


6.病期別初回治療の内容(「がん」と診断後、最初に計画し行われた治療 2020～2024年)

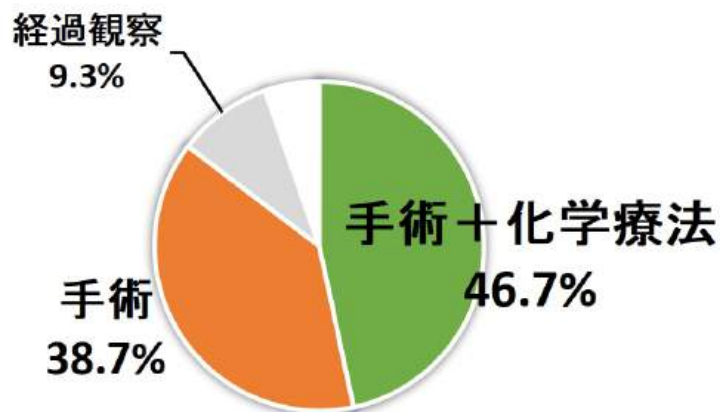
I 期



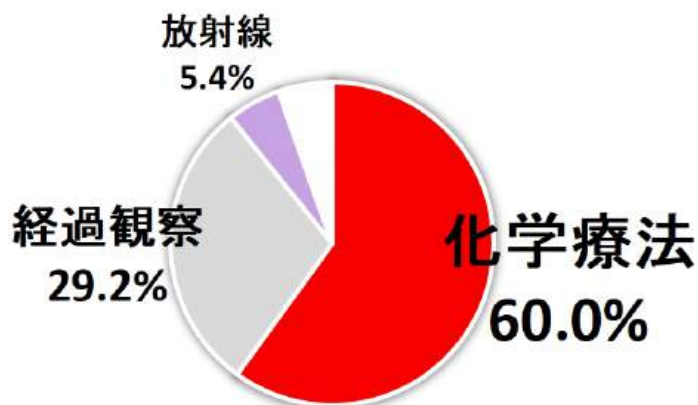
II 期



III 期



IV 期



- ・5%を超える治療の組み合わせの項目のみを表示。5%以下の項目はまとめて白色で表示(ラベルなし)
- ・当院において、がんと診断されて最初に計画された治療を開始した症例のみ集計
- ・手術:外科的治療(開腹手術)、体腔鏡的治療(胸腹腔鏡を用いた手術、ロボット支援手術)を含みます
- ・化学療法:抗がん剤、分子標的薬、免疫療法など薬を使ってがんを小さくしたり、進行を抑える治療
- ・患者さんの体調や合併症によっても治療内容は変わることがあります

7.病期別の治療件数(2020~2024年)

【治療方法について】

外科的治療:開腹術、開胸術など肉眼的視野下で行われる手術

体腔鏡的治療:光学機器の視野下で行われた手術(胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援など)

円グラフは「体腔鏡的治療の内訳」を示しています

内視鏡治療:口、鼻、肛門など体の開口部から光学機器(内視鏡など)の視野下で行われた治療

放射線治療:X線などの電磁放射線や、陽子線などの粒子放射線による治療

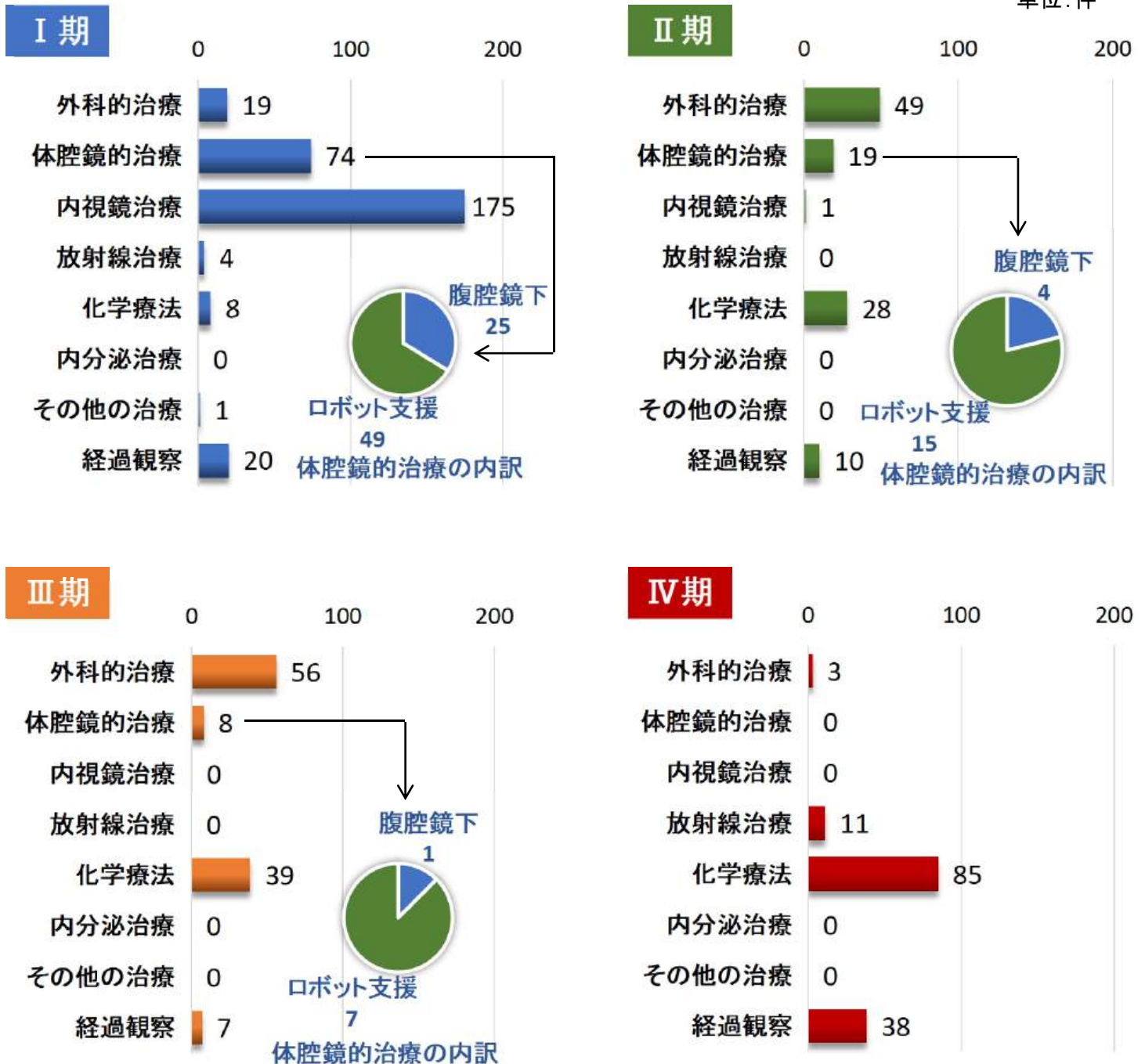
化学療法:抗癌剤、分子標的薬などを用いた治療

内分泌治療:ホルモンの分泌を抑えることで、がんの増殖を阻止する目的のために行われる治療

その他の治療:上記のいずれにも該当しない治療。レーザーやラジオ波などで腫瘍を焼灼する治療など

経過観察:がんと診断されたが、治療は行わず病気の経過を見ていくこと

単位:件



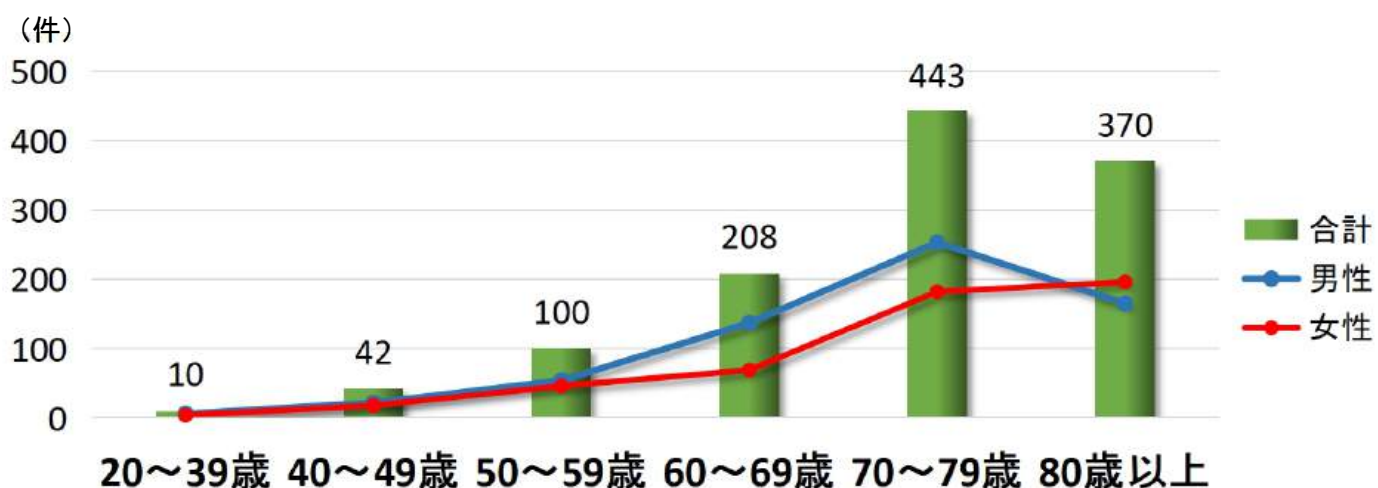
・件数は延べ件数。例えば外科的治療と抗癌剤を組み合わせで行った場合には、どちらの項目にもカウントされます

大腸癌(結腸癌+直腸癌)

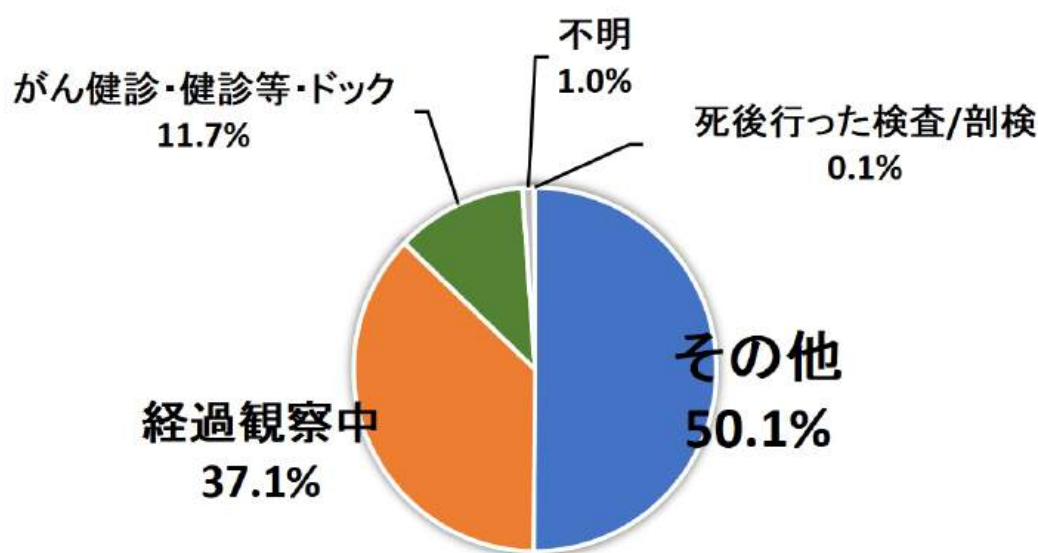
1.登録件数の年次推移(当院で「がん」と診断または治療が行われた件数)



2.年齢階級別件数(2020~2024年)

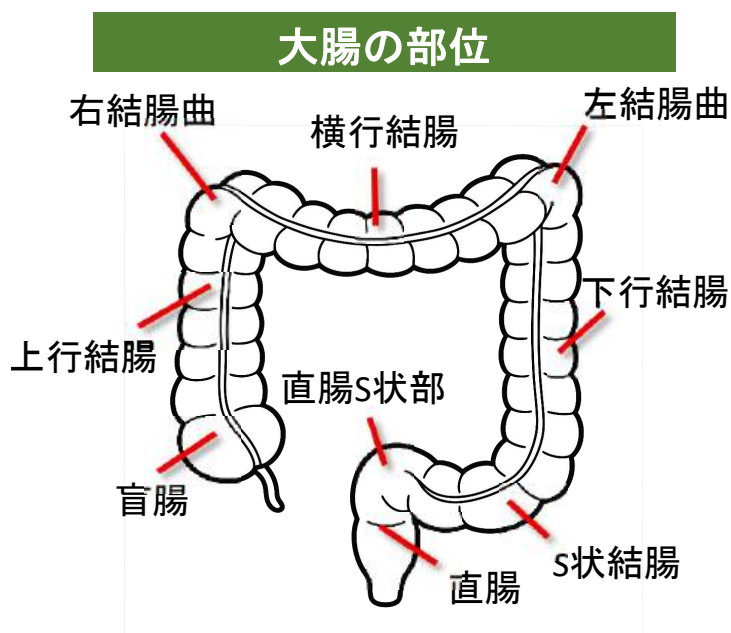
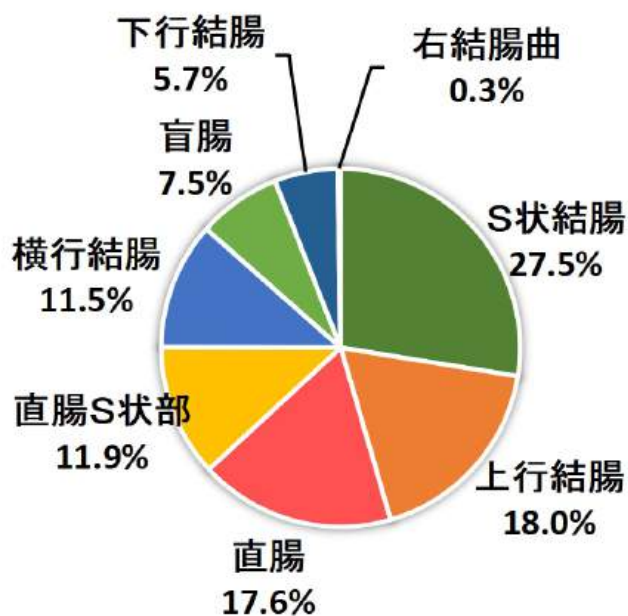


3.発見経緯の割合(「がん」が見つかったきっかけ 2020~2024年)



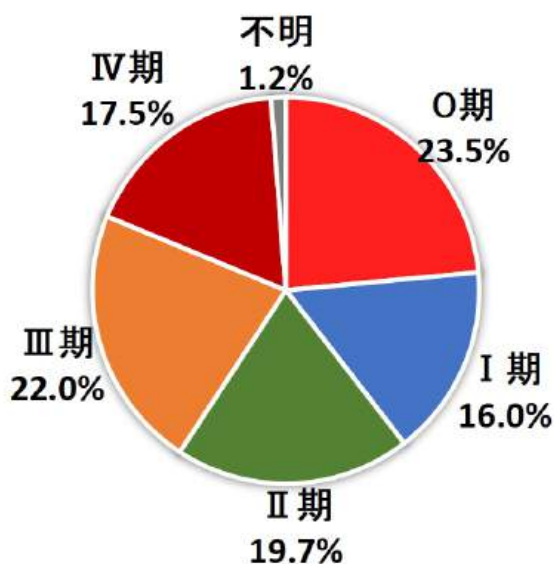
- ・経過観察中 : 自院・他院問わず、癌の疑いでの経過観察中や、他の病気の治療・検査などにより癌が発見されたものを含みます
- ・その他 : 検診・健診・ドック、経過観察に当てはまらないもの。自覚症状による受診を含みます

4. 詳細な部位の割合 (どの位置に「がん」が発生したか 2020～2024年)



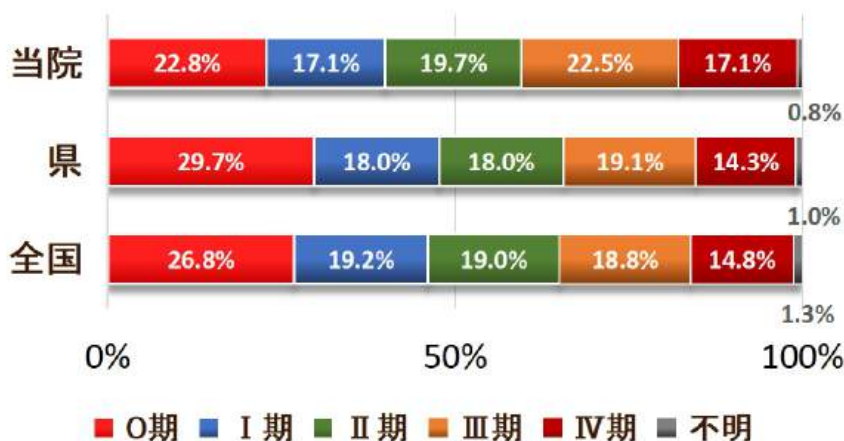
5. 病期別割合 (「がん」がどこまで広がっているかを示す”進み具合” 2020～2024年)

- ・0～Ⅳ期のローマ数字で表し、数字が大きくなるほど、がんが進行していることを示しています
- ・「(病期)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます



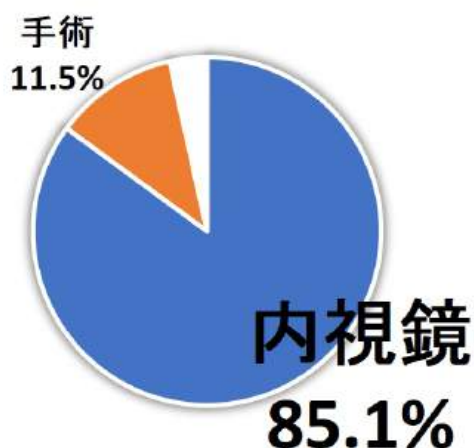
県・全国との比較 2019～2023年

(院内がん登録 全国集計 結果閲覧システムから引用)

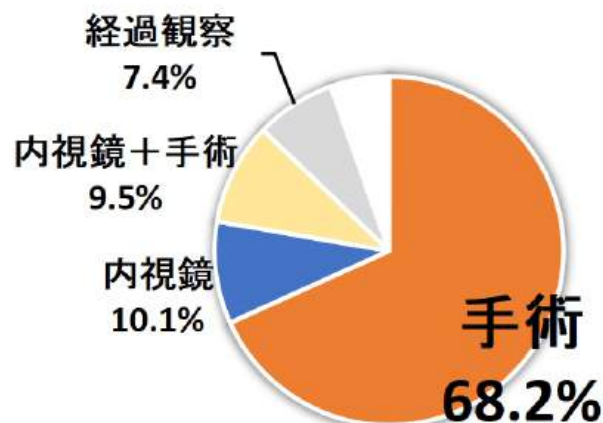


6.病期別初回治療の内容(「がん」と診断後、最初に計画し行われた治療 2020~2024年)

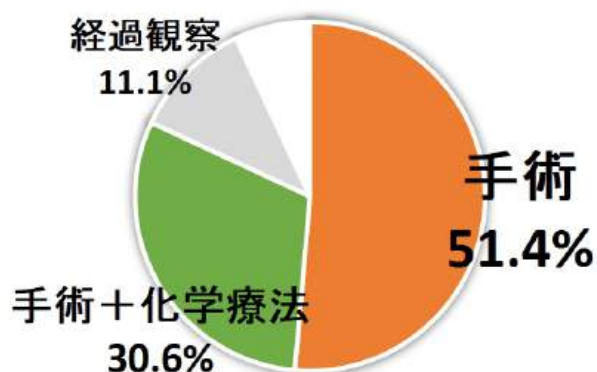
0期



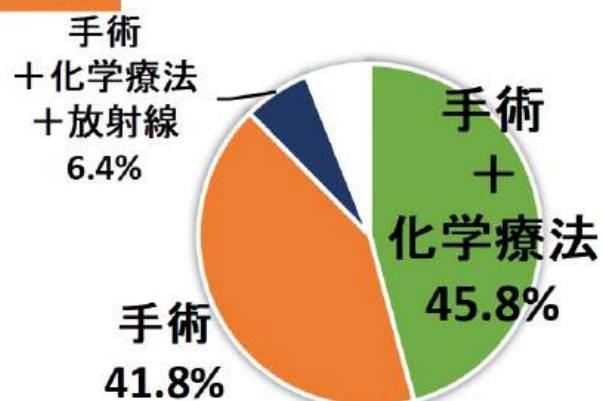
I期



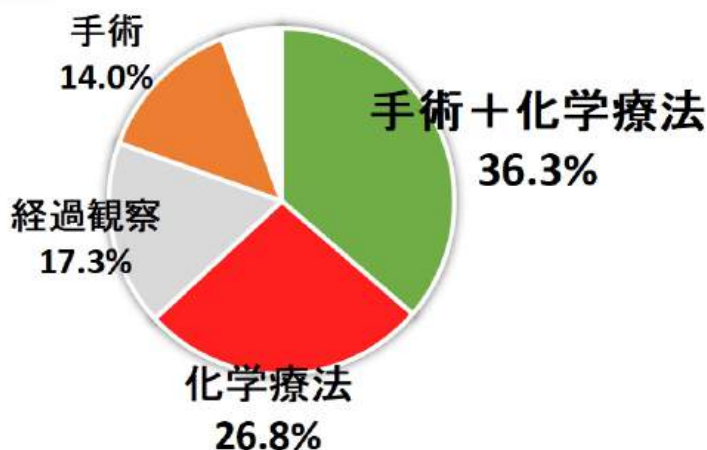
II期



III期



IV期



- ・5%を超える治療の組み合わせの項目のみを表示。5%以下の項目はまとめて白色で表示(ラベルなし)
- ・当院において、がんと診断されて最初に計画された治療を開始した症例のみ集計
- ・手術:外科的治療(開腹・開胸手術)、体腔鏡的治療(胸腔鏡・腹腔鏡を用いた手術、ロボット支援手術)を含みます
- ・化学療法:抗がん剤、分子標的薬、免疫療法など薬を使ってがんを小さくしたり、進行を抑える治療
- ・患者さんの体調や合併症によっても治療内容は変わることがあります

7.病期別の治療件数(2020~2024年)

【治療方法について】

外科的治療:開腹術、開胸術など肉眼的視野下で行われる手術

体腔鏡的治療:光学機器の視野下で行われた手術(胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援など)

円グラフは「体腔鏡的治療の内訳」を示しています

内視鏡治療:口、鼻、肛門など体の開口部から光学機器(内視鏡など)の視野下で行われた治療

放射線治療:X線などの電磁放射線や、陽子線などの粒子放射線による治療

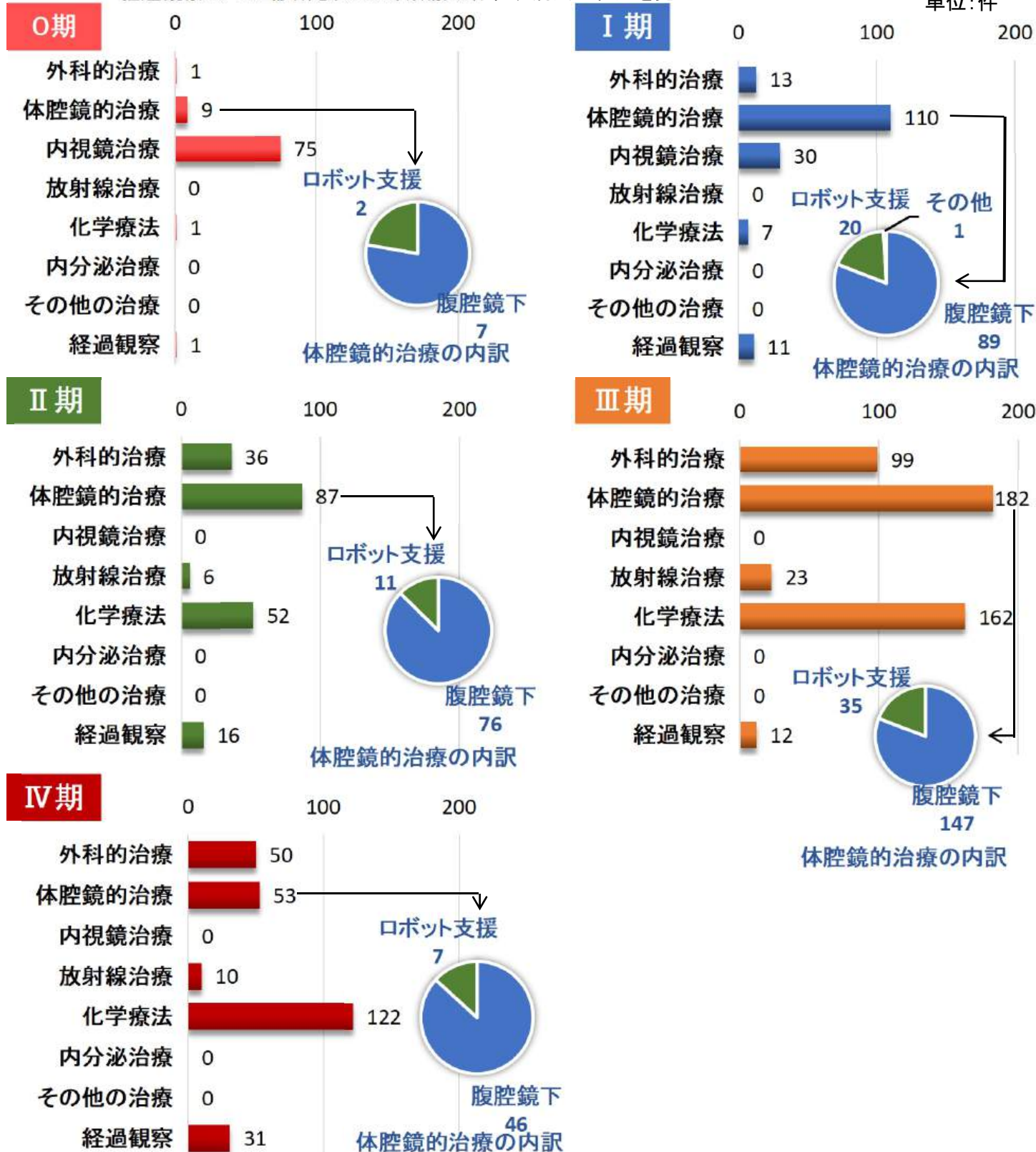
化学療法:抗癌剤、分子標的薬などを用いた治療

内分泌治療:ホルモンの分泌を抑えることで、がんの増殖を阻止する目的のために行われる治療

その他の治療:上記のいずれにも該当しない治療。レーザーやラジオ波などで腫瘍を焼灼する治療など

経過観察:がんと診断されたが、治療は行わず病気の経過を見ていくこと

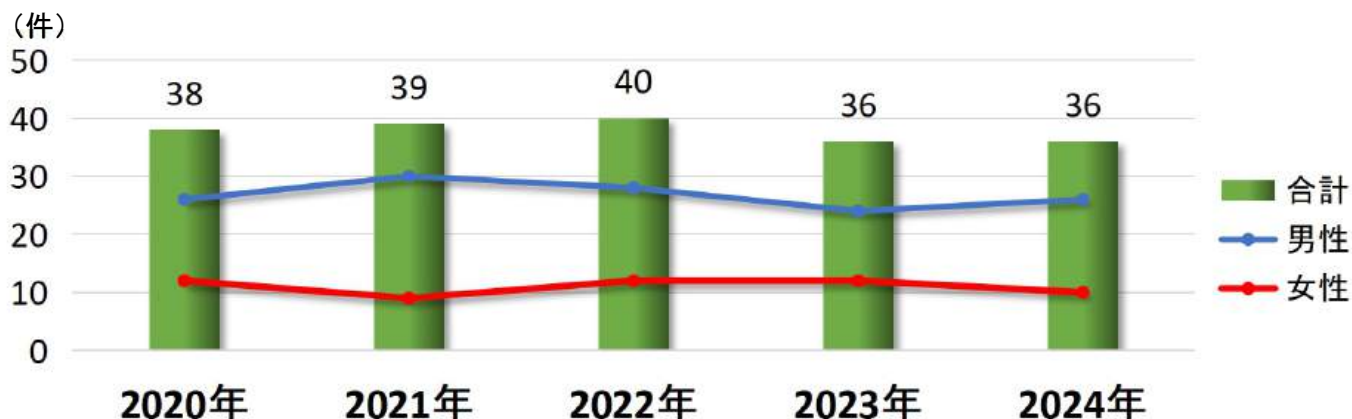
単位:件



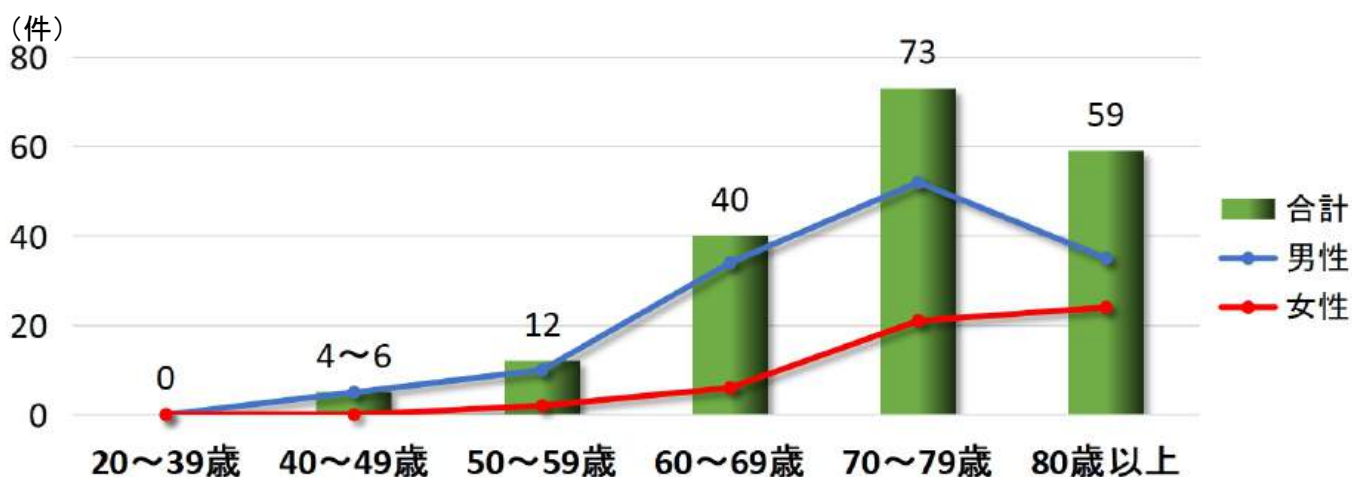
※件数は延べ件数。例えば外科的治療と抗癌剤を組み合わせで行った場合には、どちらの項目にもカウントされます

原発性肝癌(肝細胞癌)

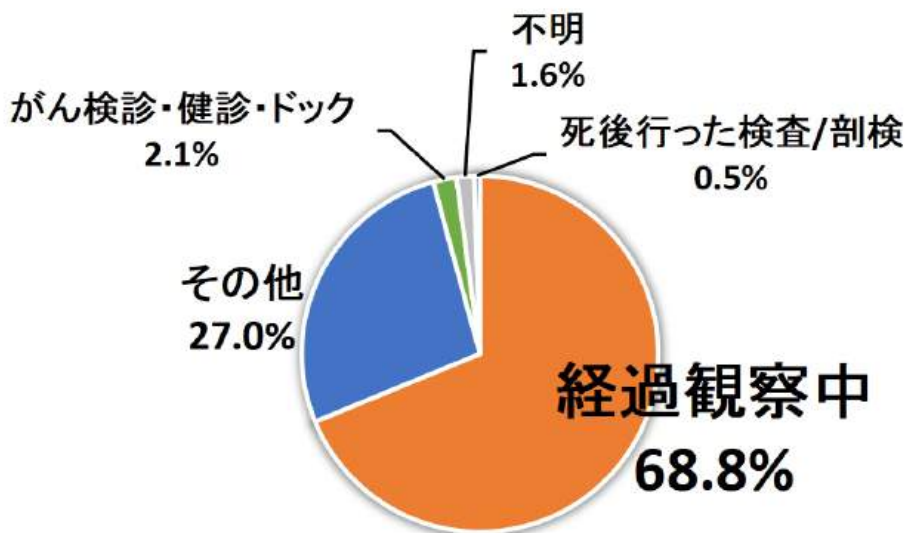
1.登録件数の年次推移(当院で「がん」と診断または治療が行われた件数)



2.年齢階級別件数(2020~2024年)



3.発見経緯の割合(「がん」が見つかったきっかけ 2020~2024年)



- ・経過観察中 : 自院・他院問わず、癌の疑いでの経過観察中や、他の病気の治療・検査などにより癌が発見されたものを含みます
- ・その他 : 検診・健診・ドック、経過観察に当てはまらないもの。自覚症状による受診を含みます

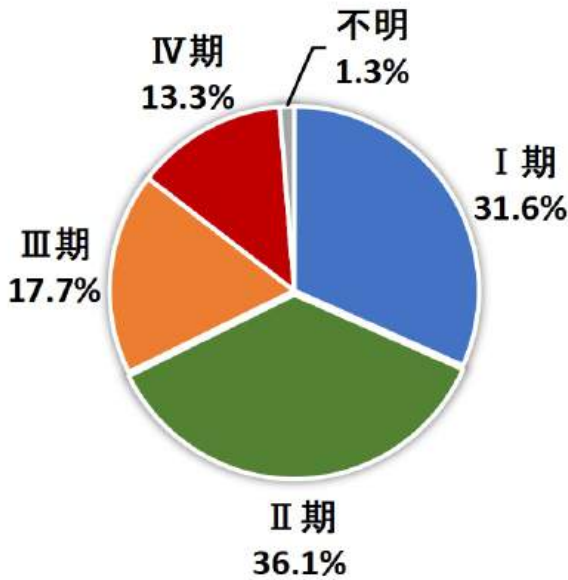
4-1.病期分類別割合<肝癌取扱い規約> (「がん」がどこまで広がっているかを示す”進み具合” 2020~2024年)

【肝癌(肝細胞癌)の病期分類について】

肝細胞癌の病期分類には2種類あります。

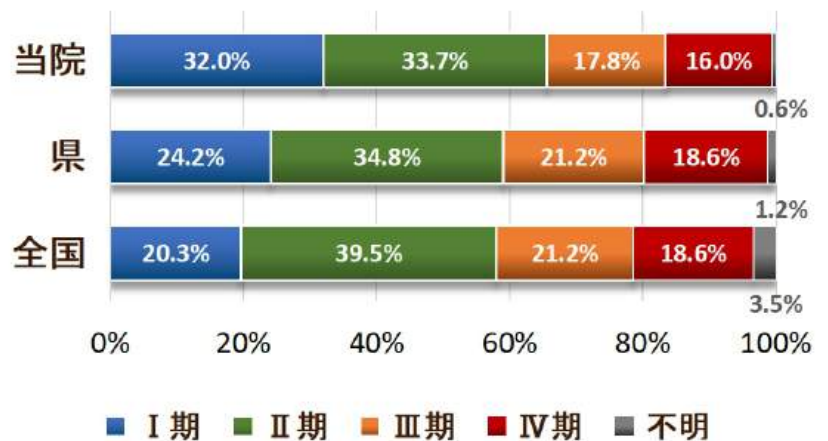
- ①**肝癌取扱い規約**: 日本肝癌研究会が作成。国内で主に使われる分類方法
- ②**UICC TNM分類**: 国際対がん連合(UICC)が採用している世界で共通の分類方法

肝癌の治療方針を考えるとときは、肝癌の特徴を詳しく見られる肝癌取扱い規約を参考にすることが多いです。どちらもⅠ～Ⅳ期のローマ数字で表し、数字が大きくなるほど、がんが進行していることを示しています。同じ病期でも、「肝癌取扱い規約」と「UICC分類」でがんの状態が異なることもあるため注意が必要です。「(病期)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます。

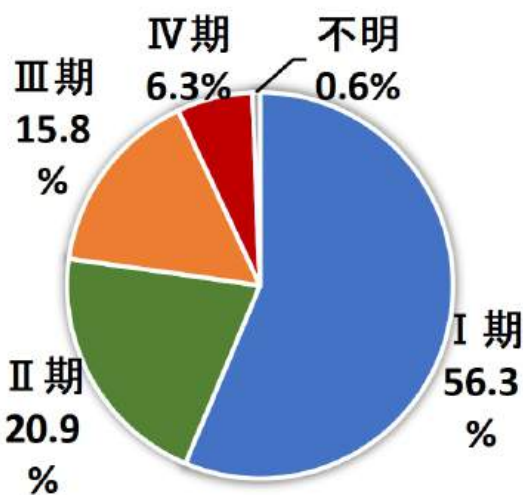


県・全国との比較 2019~2023年

(院内がん登録 全国集計 結果閲覧システムから引用)

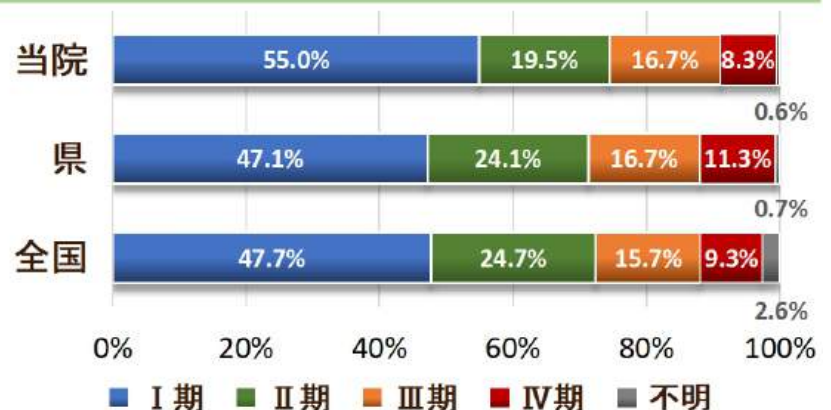


4-2.病期分類別割合<UICC TNM分類> (「がん」がどこまで広がっているかを示す”進み具合” 2020~2024年)



県・全国との比較 2019~2023年

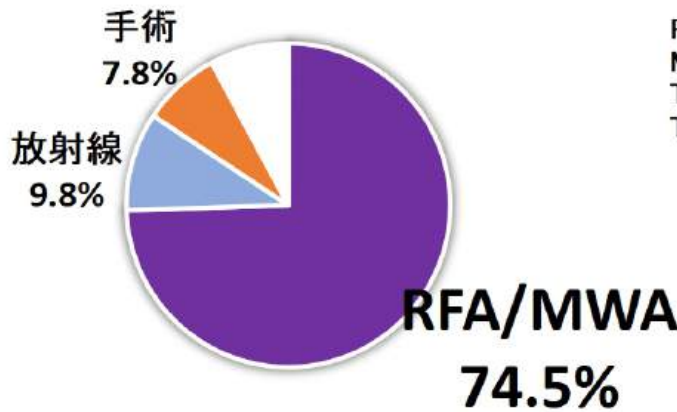
(院内がん登録 全国集計 結果閲覧システムから引用)



5-1. 病期別初回治療の内容＜肝癌取り扱い規約＞

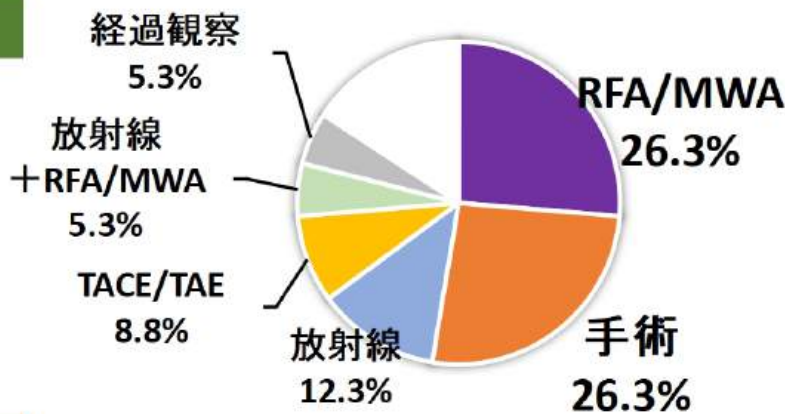
(「がん」と診断後、最初に計画し行われた治療 2020～2024年)

I 期

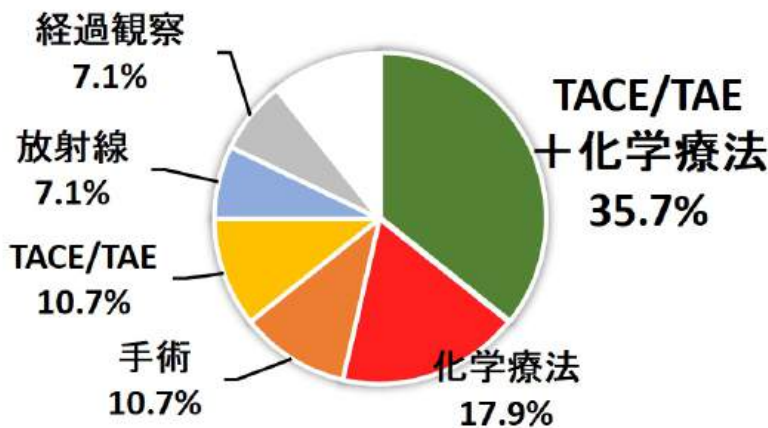


RFA: ラジオ波焼灼療法
MWA: マイクロ波凝固療法
TACE: 肝動脈化学塞栓療法
TAE: 肝動脈塞栓療法

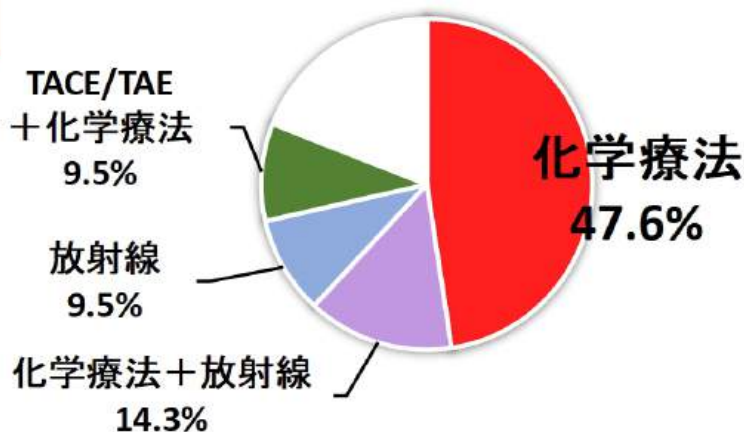
II 期



III 期



IV 期

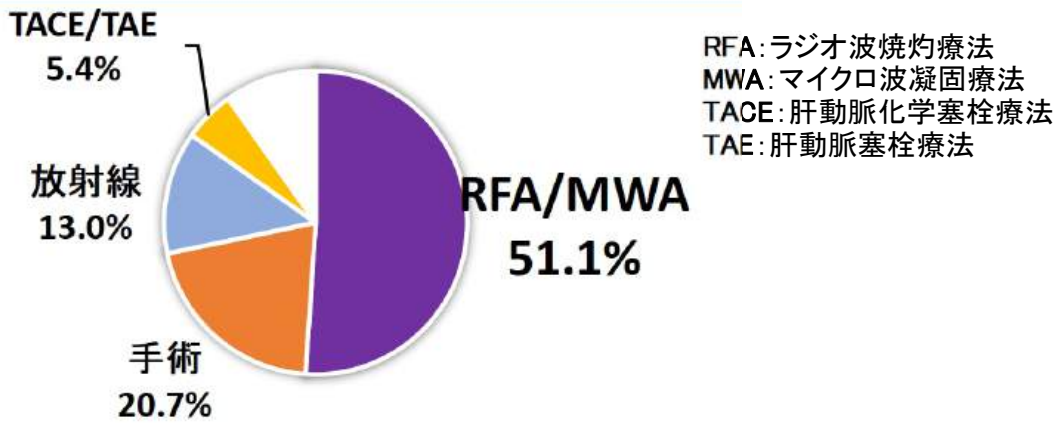


- ・5%を超える治療の組み合わせの項目のみを表示。5%以下の項目はまとめて白色で表示(ラベルなし)
- ・当院において、がんと診断されて最初に計画された治療を開始した症例のみ集計
- ・手術: 外科的治療(開腹手術)、体腔鏡的治療(腹腔鏡を用いた手術、ロボット支援手術)を含みます
- ・化学療法: 抗がん剤、分子標的薬、免疫療法など薬を使ってがんを小さくしたり、進行を抑える治療
- ・治療方針は病期や肝臓の障害度、患者さんの体調などを総合的に見て決定されます

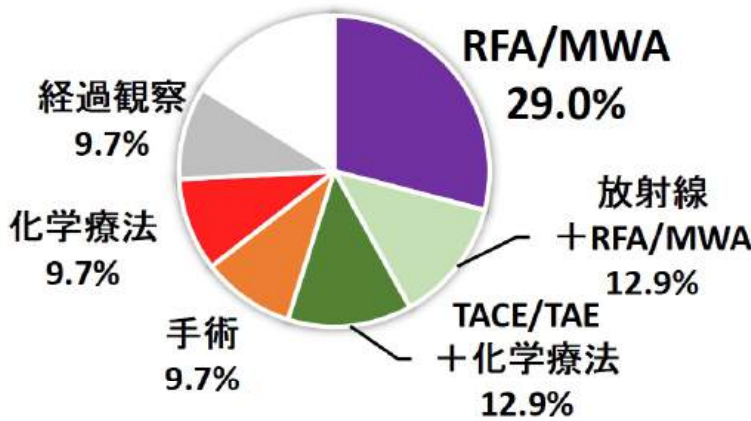
5-2. 病期別初回治療の内容<UICC TNM分類>

(「がん」と診断後、最初に計画し行われた治療 2020~2024年)

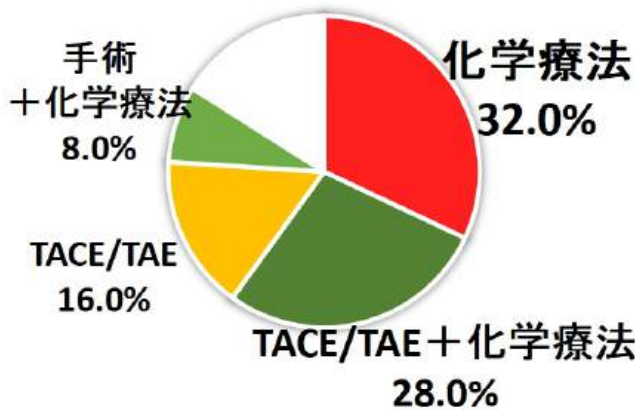
I 期



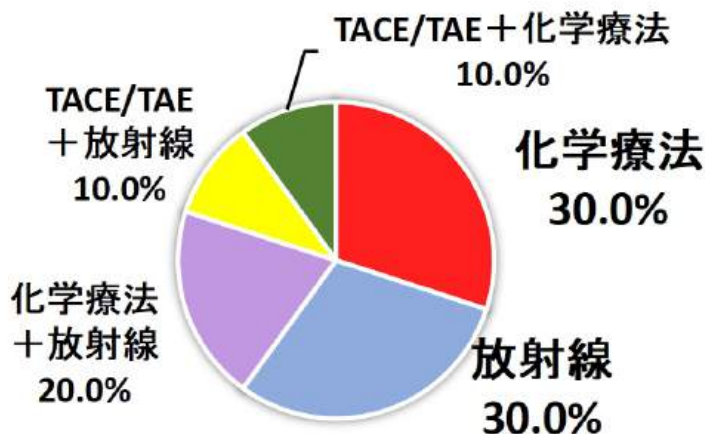
II 期



III 期



IV 期



- ・5%を超える治療の組み合わせの項目のみを表示。5%以下の項目はまとめて白色で表示(ラベルなし)
- ・当院において、がんと診断されて最初に計画された治療を開始した症例のみ集計
- ・手術: 外科的治療(開腹手術)、体腔鏡的治療(腹腔鏡を用いた手術、ロボット支援手術)を含みます
- ・化学療法: 抗がん剤、分子標的薬、免疫療法など薬を使ってがんを小さくしたり、進行を抑える治療
- ・治療方針は病期や肝臓の障害度、患者さんの体調などを総合的に見て決定されます

6-1. 病期別の治療件数＜肝癌取扱い規約＞（2020～2024年）

【治療方法について】

外科的治療：開腹術、開胸術など肉眼的視野下で行われる手術

体腔鏡的治療：光学機器の視野下で行われた手術（胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援など）

肝癌の「体腔鏡的治療の内訳」はすべて腹腔鏡手術になります

内視鏡治療：口、鼻、肛門など体の開口部から光学機器（内視鏡など）の視野下で行われた治療

放射線治療：X線などの電磁放射線や、陽子線などの粒子放射線による治療

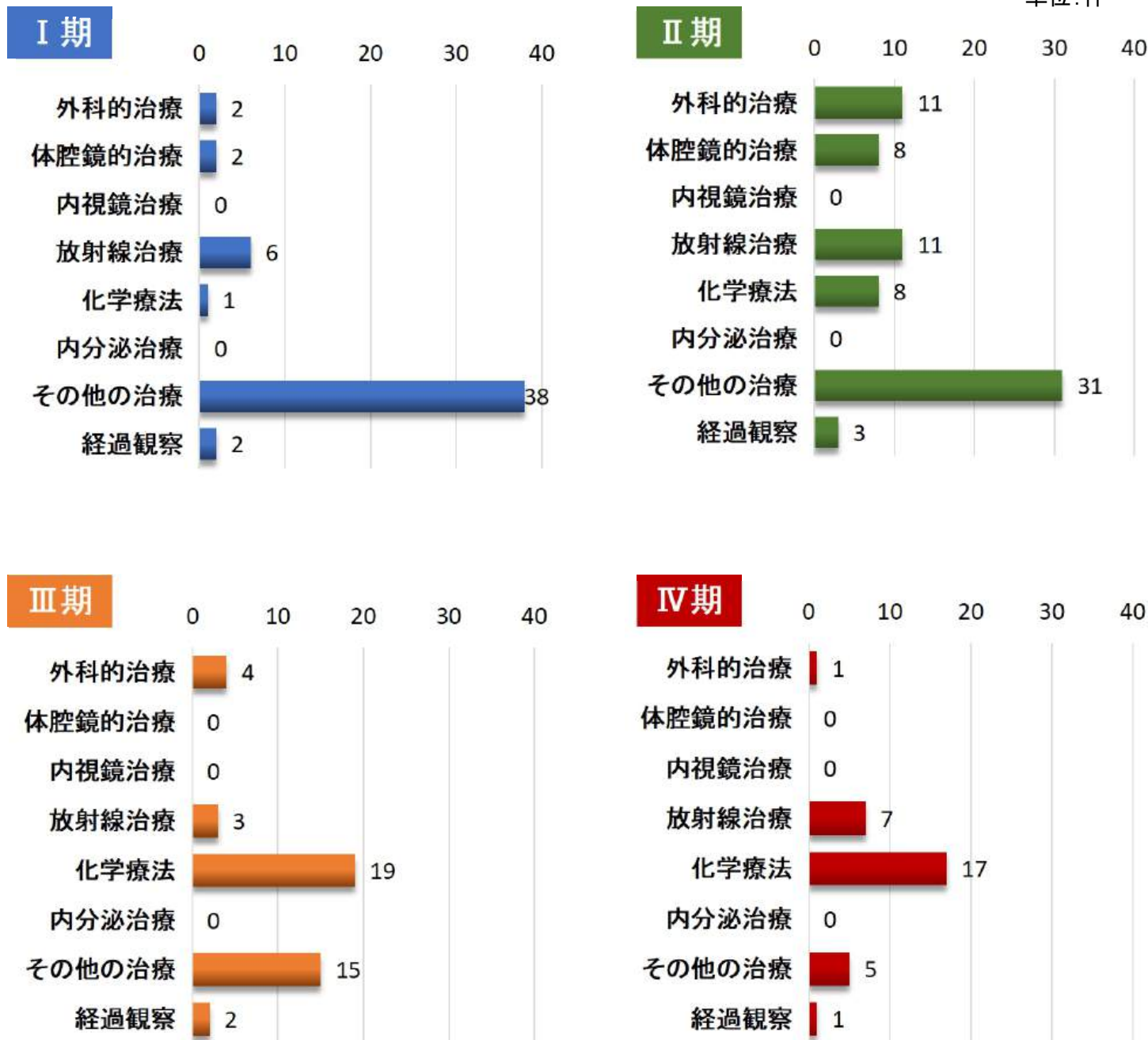
化学療法：抗癌剤、分子標的薬などを用いた治療

内分泌治療：ホルモンの分泌を抑えることで、がんの増殖を阻止する目的のために行われる治療

その他の治療：上記のいずれにも該当しない治療。レーザーやラジオ波などで腫瘍を焼灼する治療など

経過観察：がんと診断されたが、治療は行わず病気の経過を見ていくこと

単位：件



・件数は延べ件数。例えば外科的治療と抗癌剤を組み合わせで行った場合には、どちらの項目にもカウントされます

6-2.病期別の治療件数<UICC TNM分類>(2020~2024年)

【治療方法について】

外科的治療:開腹術、開胸術など肉眼的視野下で行われる手術

体腔鏡的治療:光学機器の視野下で行われた手術(胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援など)

肝癌の「体腔鏡的治療の内訳」はすべて腹腔鏡手術になります

内視鏡治療:口、鼻、肛門など体の開口部から光学機器(内視鏡など)の視野下で行われた治療

放射線治療:X線などの電磁放射線や、陽子線などの粒子放射線による治療

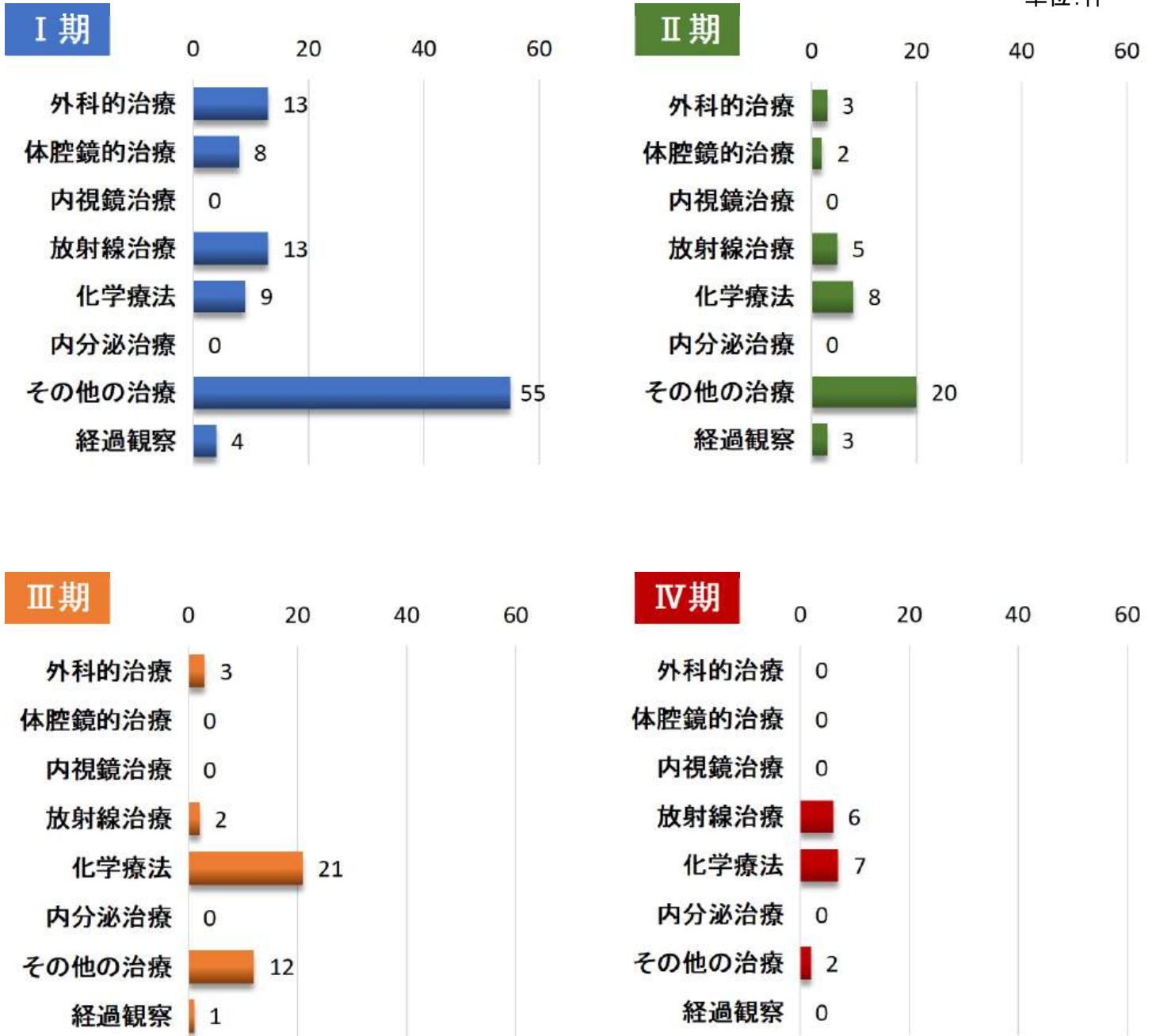
化学療法:抗癌剤、分子標的薬などを用いた治療

内分泌治療:ホルモンの分泌を抑えることで、がんの増殖を阻止する目的のために行われる治療

その他の治療:上記のいずれにも該当しない治療。レーザーやラジオ波などで腫瘍を焼灼する治療など

経過観察:がんと診断されたが、治療は行わず病気の経過を見ていくこと

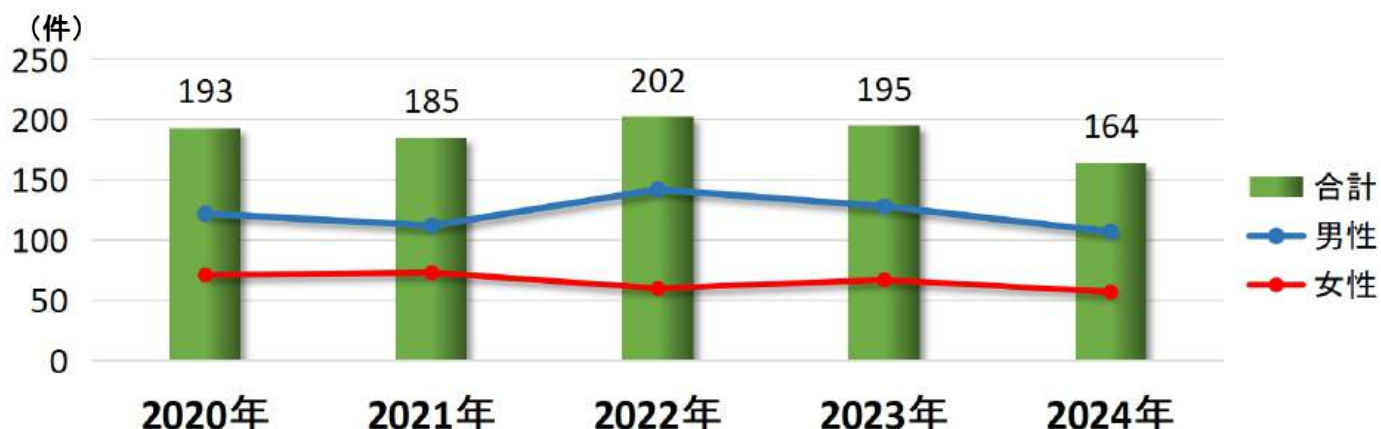
単位:件



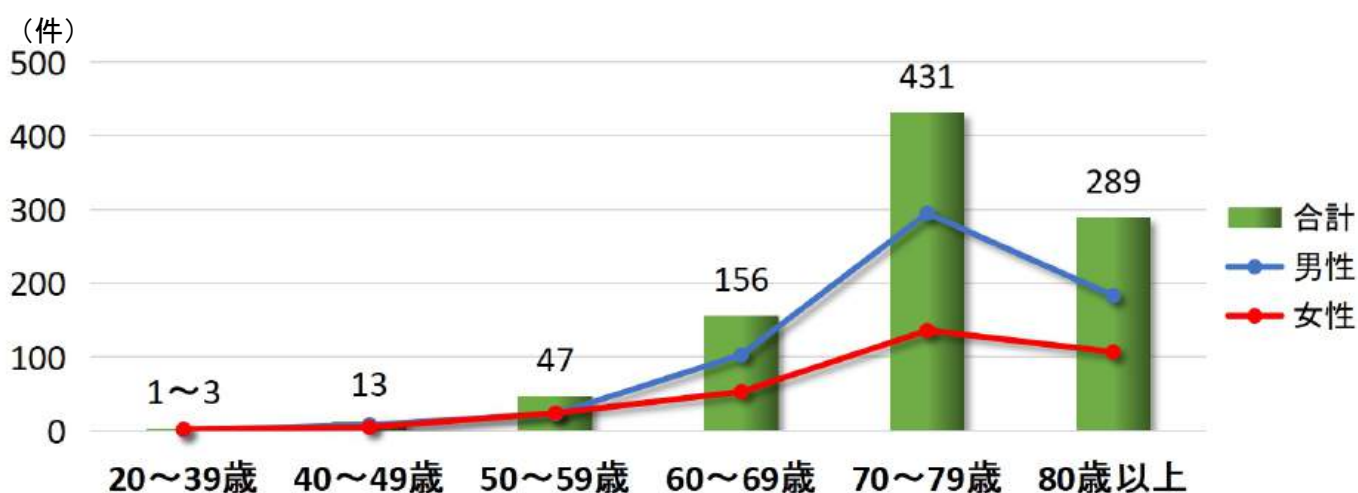
・件数は延べ件数。例えば外科的治療と抗癌剤を組み合わせで行った場合には、どちらの項目にもカウントされます

肺 癌

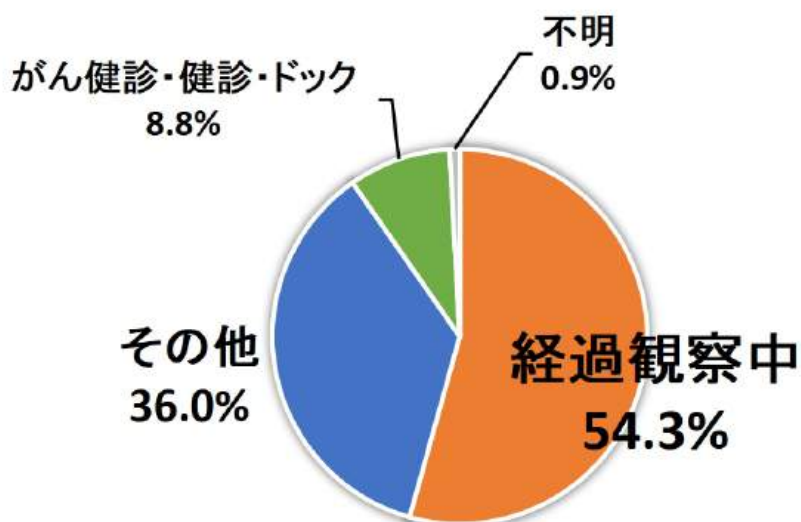
1.登録件数の年次推移(当院で「がん」と診断または治療が行われた件数)



2.年齢階級別件数(2020~2024年)



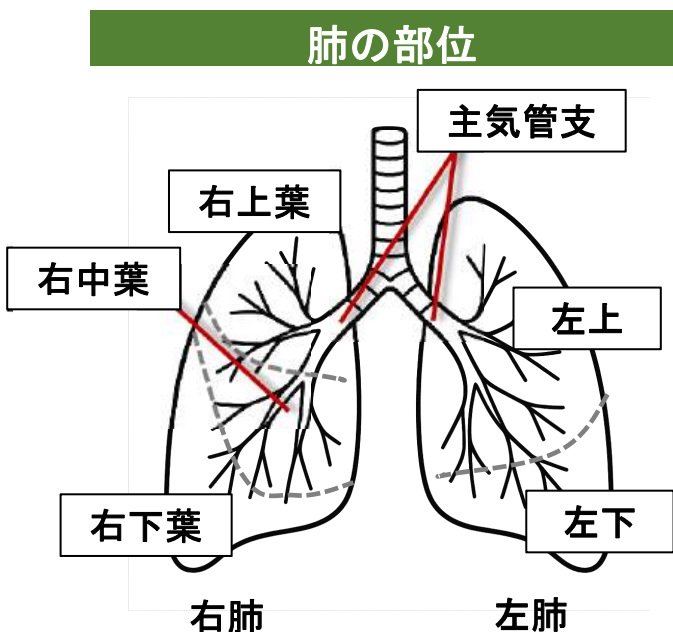
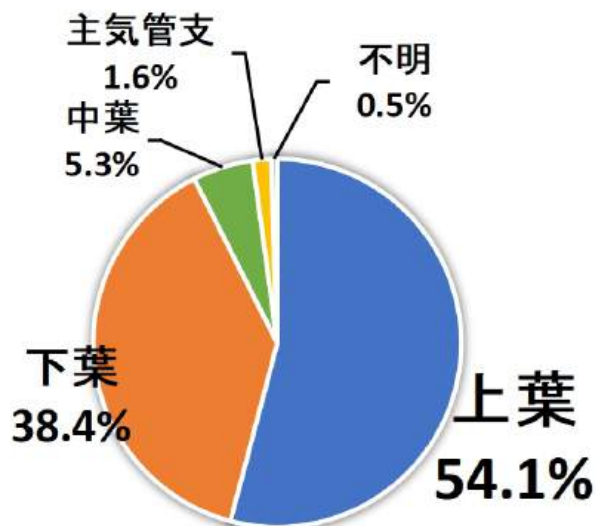
3.発見経緯の割合(「がん」が見つかったきっかけ 2020~2024年)



- ・経過観察中 : 自院・他院問わず、癌の疑いでの経過観察中や、他の病気の治療・検査などにより癌が発見されたものを含みます
- ・その他 : 検診・健診・ドック、経過観察に当てはまらないもの。自覚症状による受診を含みます

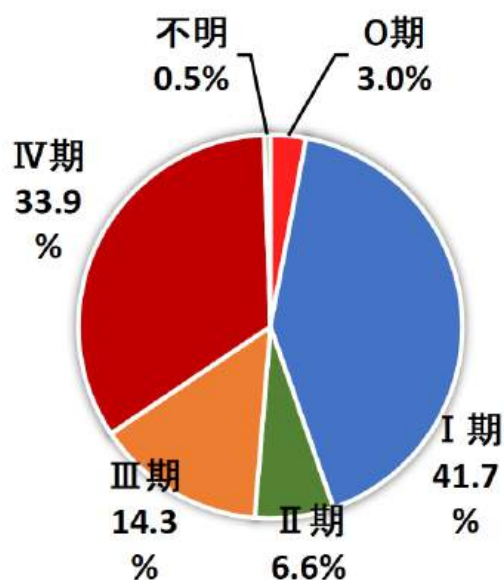
4. 詳細な部位の割合 (どの位置に「がん」が発生したか 2020～2024年)

・「(部位)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます



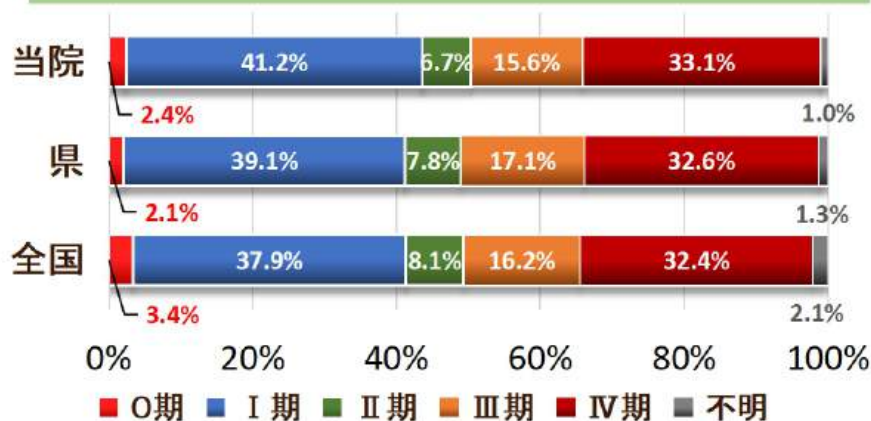
5. 病期別割合 (「がん」がどこまで広がっているかを示す”進み具合” 2020～2024年)

・ I～IV期のローマ数字で表し、数字が大きくなるほど、がんが進行していることを示しています
 ・「(病期)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます



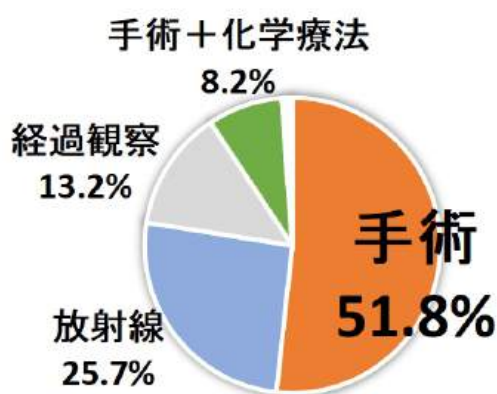
県・全国との比較 2019～2023年

(院内がん登録 全国集計 結果閲覧システムから引用)

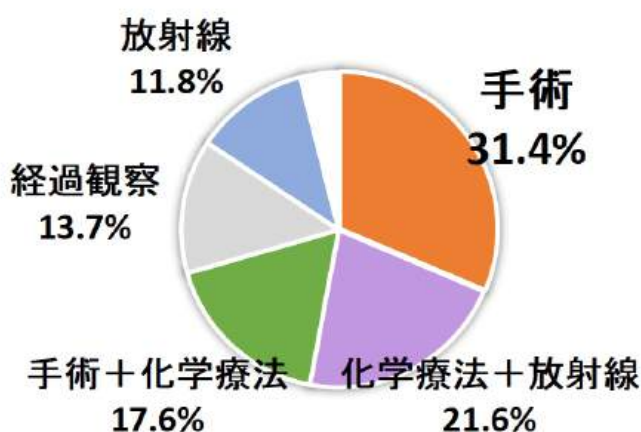


6.病期別初回治療の内容(「がん」と診断後、最初に計画し行われた治療 2020～2024年)

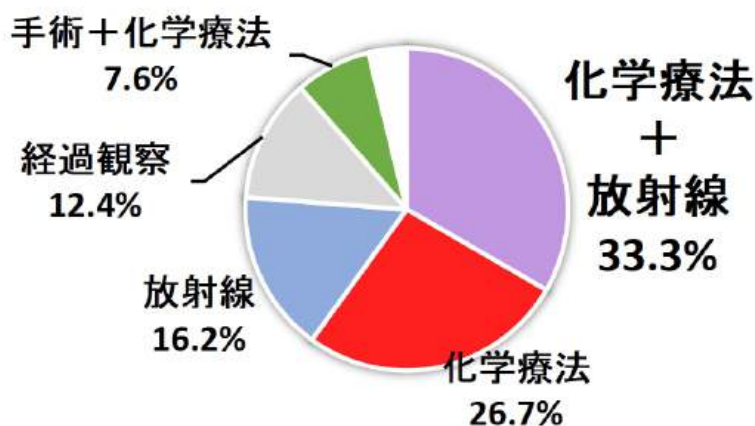
I 期



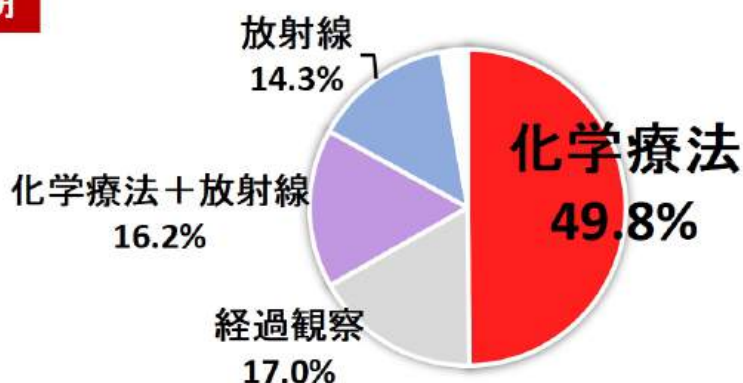
II 期



III 期



IV 期



- ・5%を超える治療の組み合わせの項目のみを表示。5%以下の項目はまとめて白色で表示(ラベルなし)
- ・当院において、がんと診断されて最初に計画された治療を開始した症例のみ集計
- ・手術:外科的治療(開胸手術)、体腔鏡的治療(胸腔鏡を用いた手術、ロボット支援手術)を含みます
- ・化学療法:抗がん剤、分子標的薬、免疫療法など薬を使ってがんを小さくしたり、進行を抑える治療
- ・患者さんの体調や合併症によっても治療内容は変わることがあります

7.病期別の治療件数(2020~2024年)

【治療方法について】

外科的治療:開腹術、開胸術など肉眼的視野下で行われる手術

体腔鏡的治療:光学機器の視野下で行われた手術(胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援など)

円グラフは「体腔鏡的治療の内訳」を示しています

内視鏡治療:口、鼻、肛門など体の開口部から光学機器(内視鏡など)の視野下で行われた治療

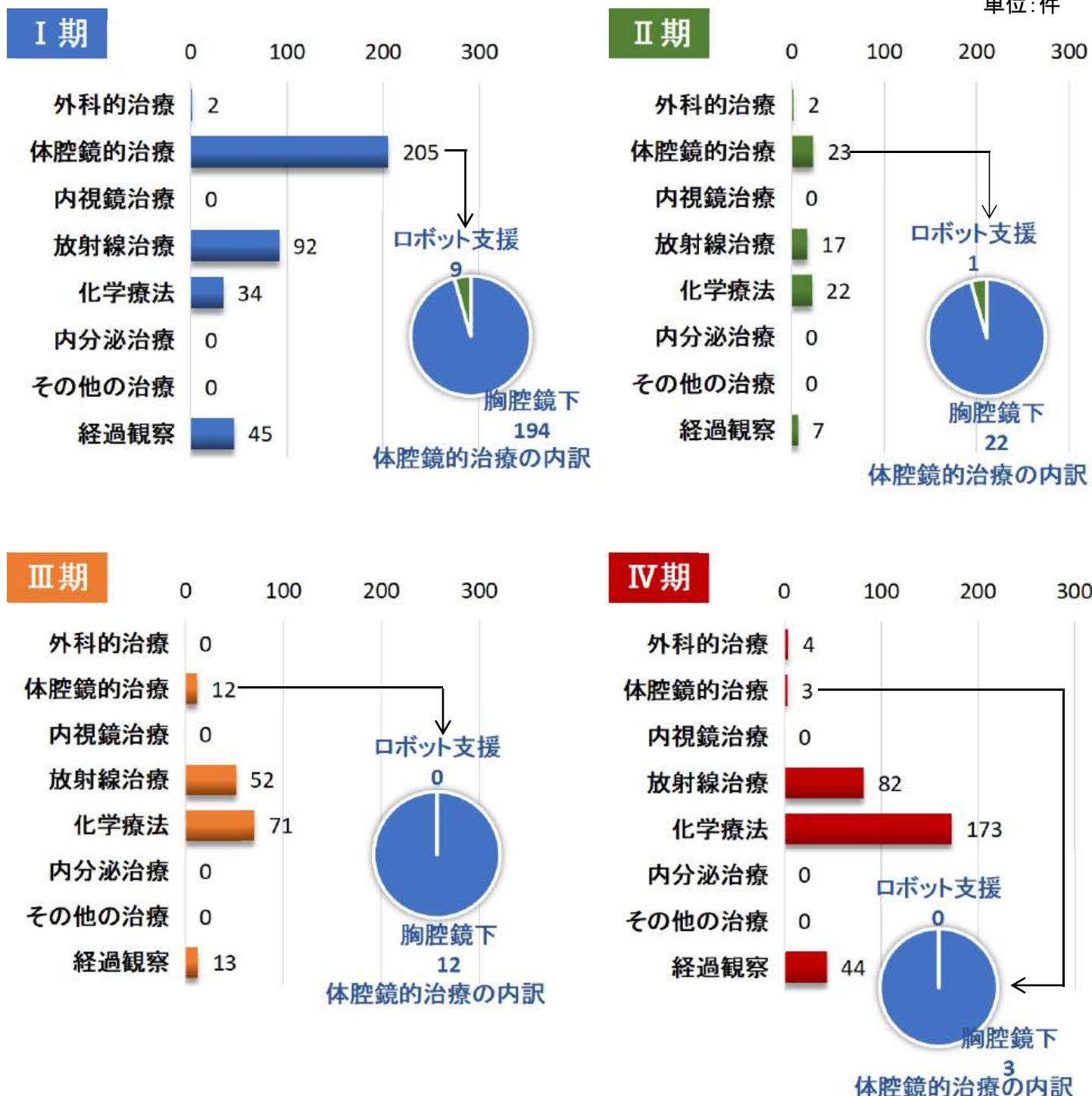
放射線治療:X線などの電磁放射線や、陽子線などの粒子放射線による治療

化学療法:抗癌剤、分子標的薬などを用いた治療

内分泌治療:ホルモンの分泌を抑えることで、がんの増殖を阻止する目的のために行われる治療

その他の治療:上記のいずれにも該当しない治療。レーザーやラジオ波などで腫瘍を焼灼する治療など

経過観察:がんと診断されたが、治療は行わず病気の経過を見ていくこと



・件数は延べ件数。例えば外科的治療と抗癌剤を組み合わせを行った場合には、どちらの項目にもカウントされます

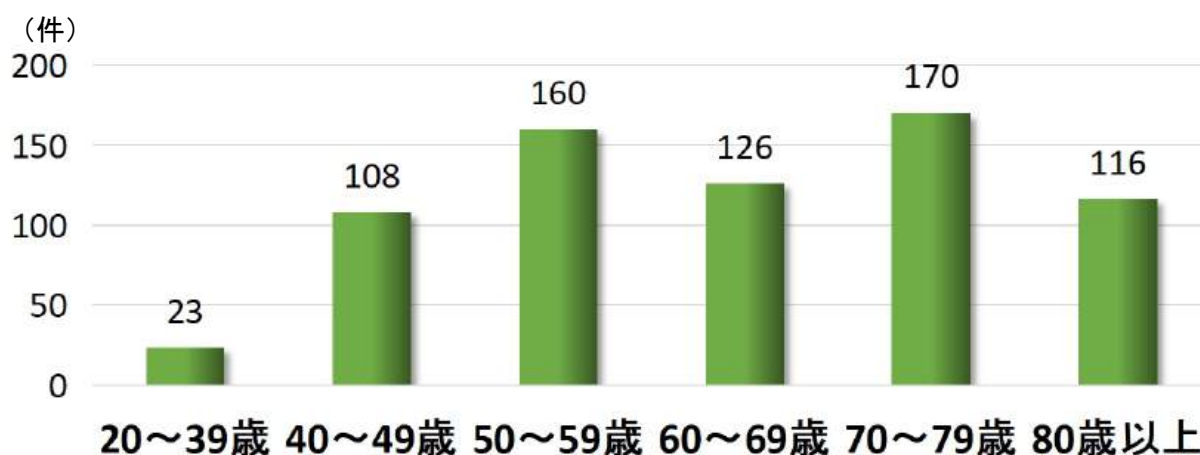
乳 癌

1.登録件数の年次推移(当院で「がん」と診断または治療が行われた件数)



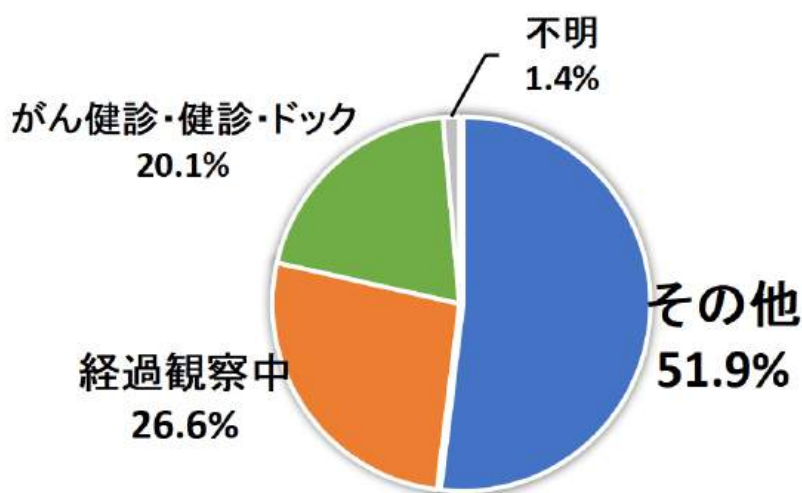
・少数の男性症例を含む

2.年齢階級別件数(2020~2024年)



・少数の男性症例を含む

3.発見経緯の割合(「がん」が見つかったきっかけ 2020~2024年)

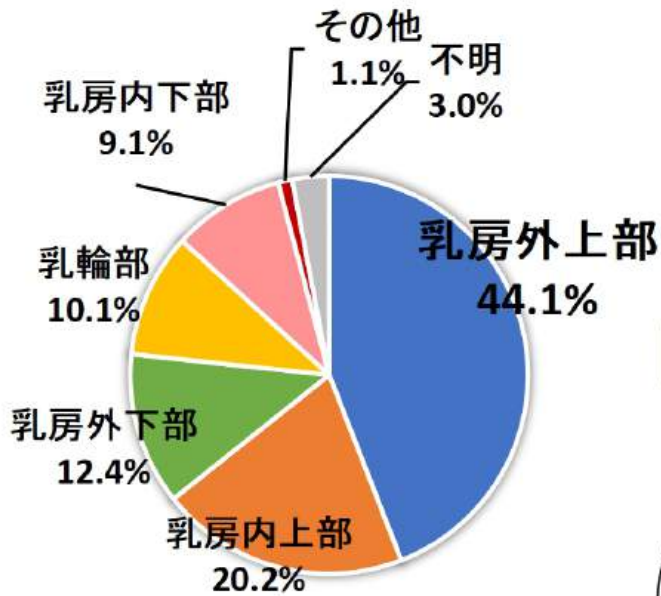


・経過観察中 : 自院・他院問わず、癌の疑いで経過観察中や、他の病気の治療・検査などにより癌が発見されたものを含みます

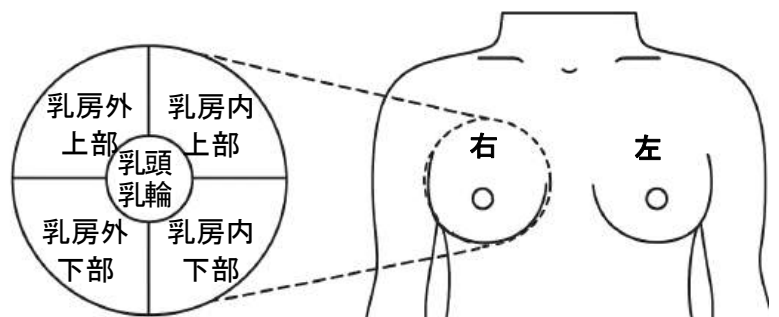
・その他 : 検診・健診・ドック、経過観察に当てはまらないもの。自覚症状による受診を含みます

4. 詳細な部位の割合 (どの位置に「がん」が発生したか 2020～2024年)

・「(部位)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます



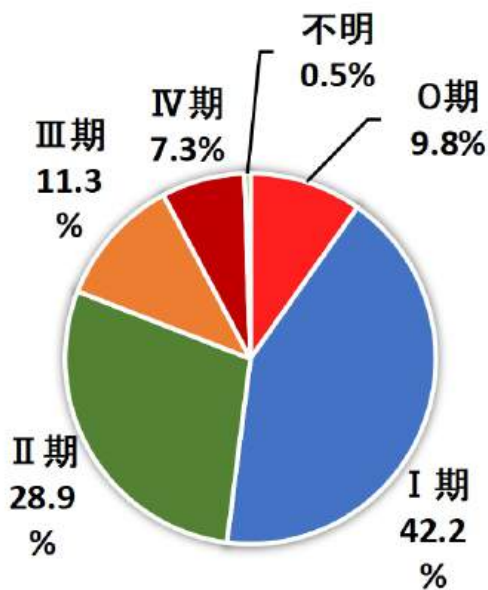
乳房の部位



左乳房の場合は
内側と外側の位置が逆になります

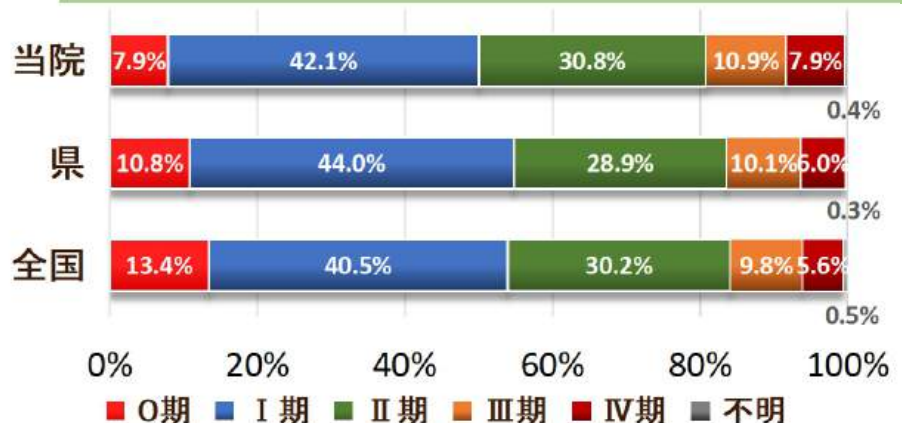
5. 病期別 (「がん」がどこまで広がっているかを示す”進み具合” 2020～2024年)

・0～Ⅳ期 (部位により異なる) のローマ数字で表し、数字が大きくなるほど、がんが進行していることを示しています
・「(病期)不明」は、本人の希望で検査や治療を行わなかったケースが含まれます



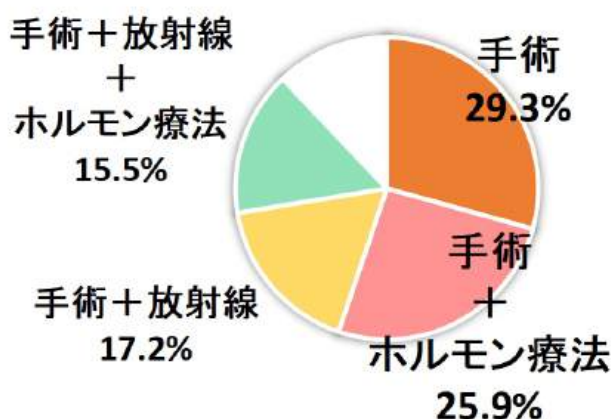
県・全国との比較 2019～2023年

(院内がん登録 全国集計 結果閲覧システムから引用)

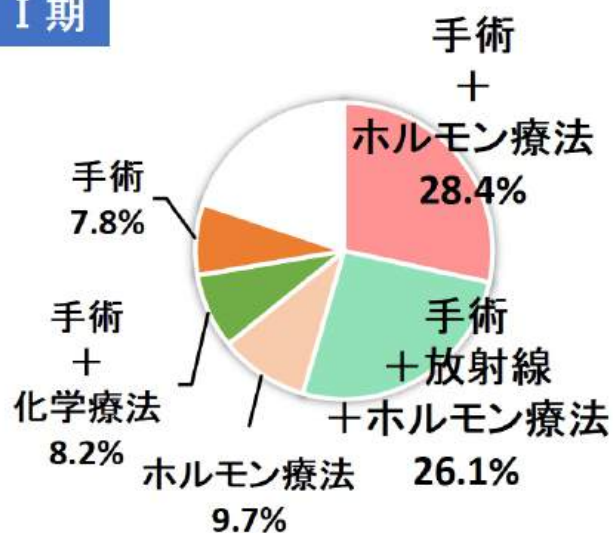


6.病期別初回治療の内容(「がん」と診断後、最初に計画し行われた治療 2020~2024年)

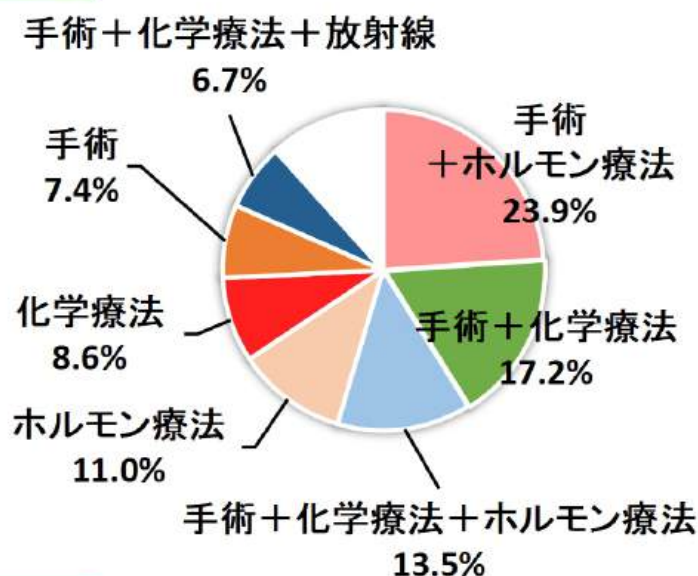
0期



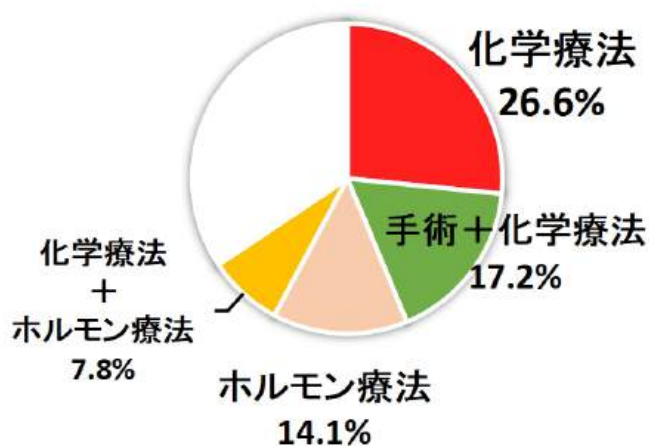
I期



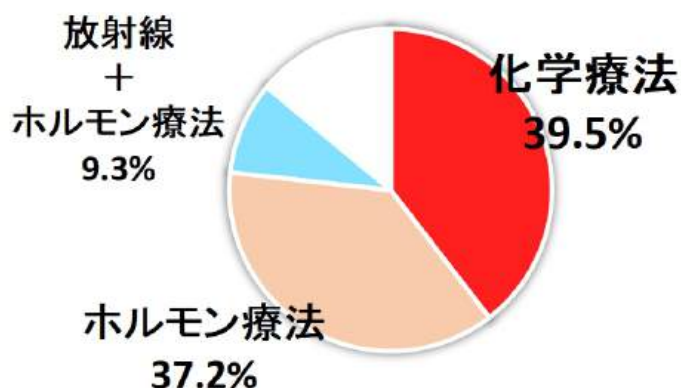
II期



III期



IV期



- ・5%を超える治療の組み合わせの項目のみを表示。5%以下の項目はまとめて白色で表示(ラベルなし)
- ・当院において、がんと診断されて最初に計画された治療を開始した症例のみ集計
- ・手術:外科的治療(開腹・開胸手術)、体腔鏡的治療(胸腔鏡・腹腔鏡を用いた手術、ロボット支援手術)を含みます
- ・化学療法:抗がん剤、分子標的薬、免疫療法など薬を使ってがんを小さくしたり、進行を抑える治療
- ・患者さんの体調や合併症によっても治療内容は変わることがあります

7.病期別治療件数(2020～2024年)

【治療方法について】

外科的治療:開腹術、開胸術など肉眼的視野下で行われる手術

体腔鏡的治療:光学機器の視野下で行われた手術(胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット支援など)

内視鏡治療:口、鼻、肛門など体の開口部から光学機器(内視鏡など)の視野下で行われた治療

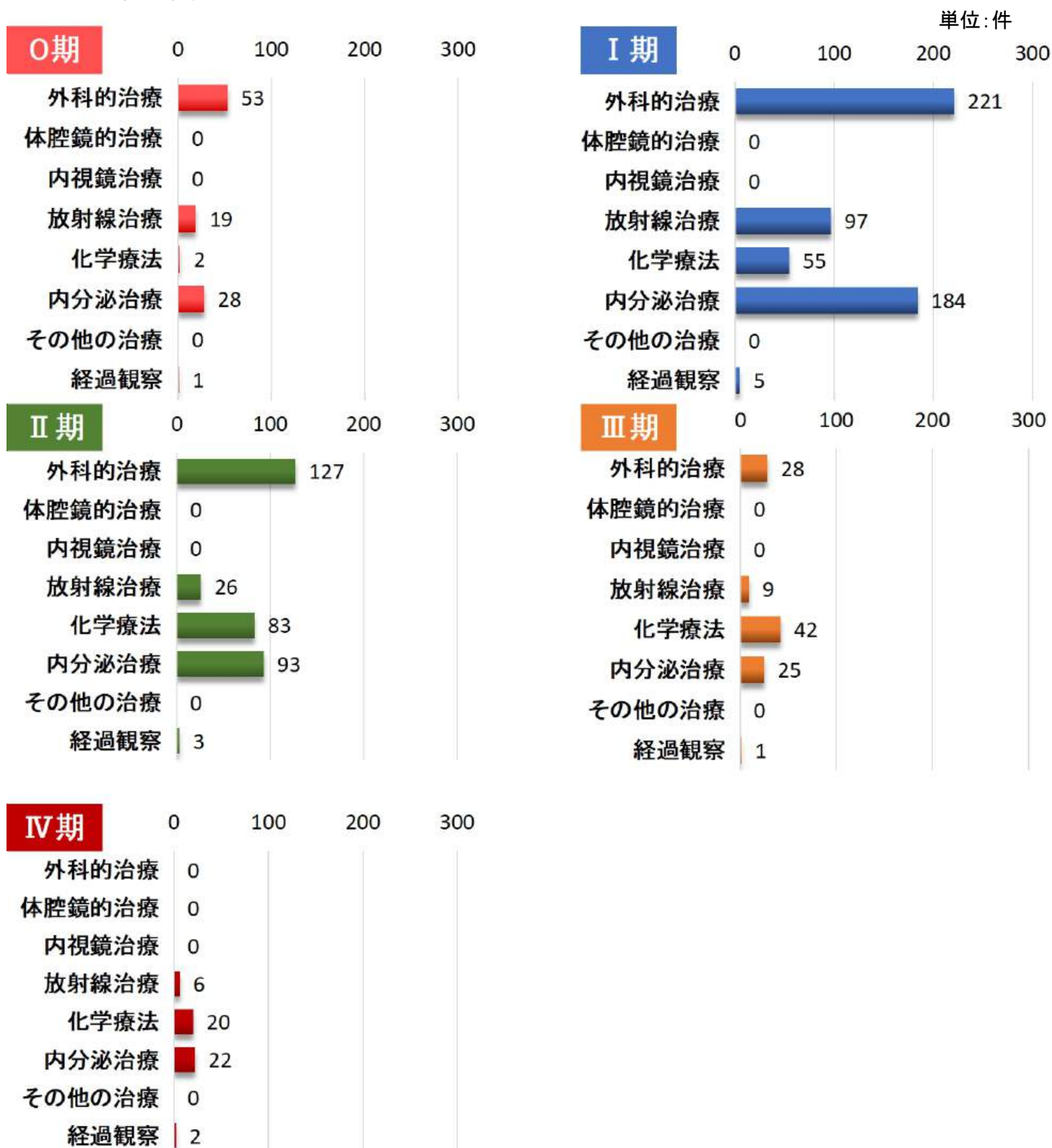
放射線治療:X線などの電磁放射線や、陽子線などの粒子放射線による治療

化学療法:抗癌剤、分子標的薬などを用いた治療

内分泌治療:ホルモンの分泌を抑えることで、がんの増殖を阻止する目的のために行われる治療

その他の治療:上記のいずれにも該当しない治療。レーザーやラジオ波などで腫瘍を焼灼する治療など

経過観察:がんと診断されたが、治療は行わず病気の経過を見ていくこと



・件数は延べ件数。例えば外科的治療と抗癌剤を組み合わせで行った場合には、どちらの項目にもカウントされます